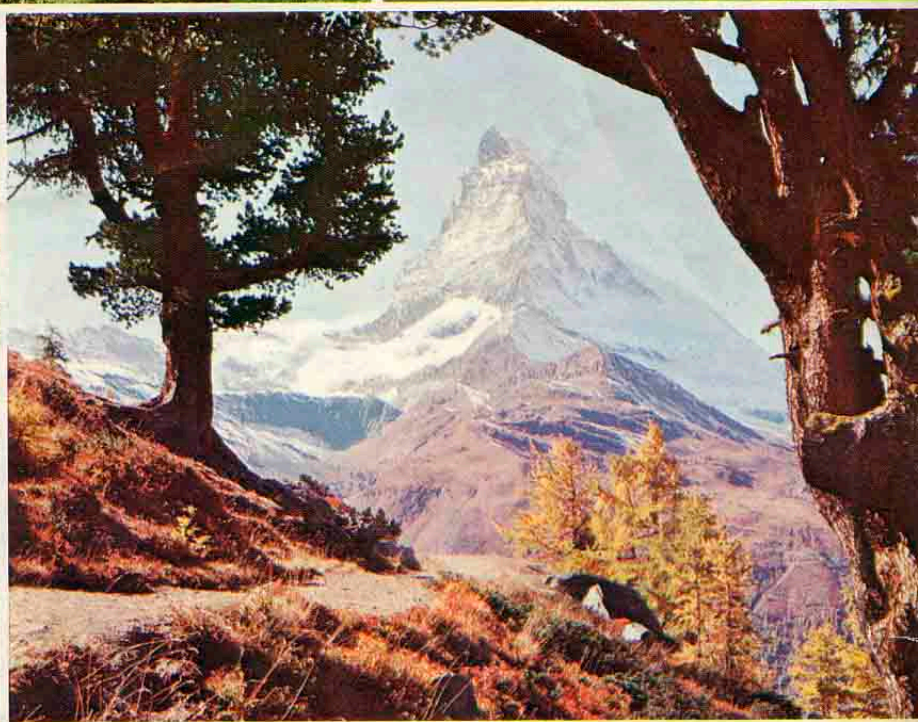
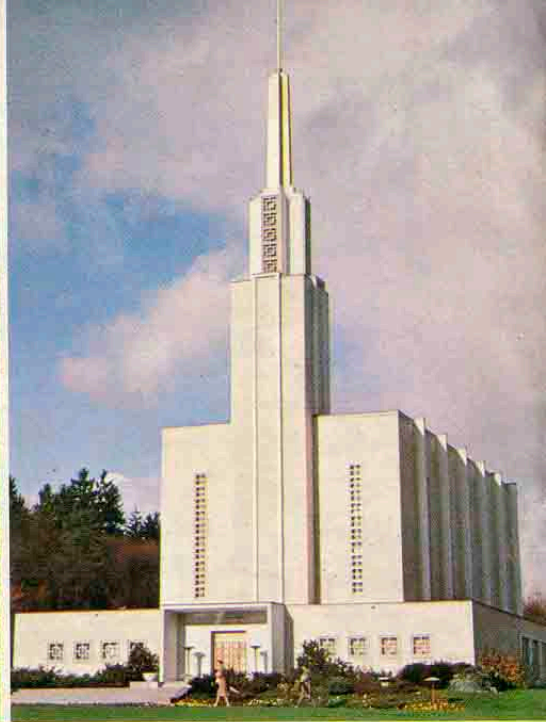




特集

ドイツ語を話す国々の教会

聖徒の道

1969

3





心の糧

十二使徒評議員会補助

エルレイ L. クリスチャンセン

末日聖徒は単に建築美を称讃されるために、また普通の礼拝場所とするために神殿を建てるのではない。神殿は神の忠実な娘、息子を教え、エンダウメントをささげるために、すなわち聖なる神権につける諸儀式を執行するという特別な目的をもって建設され、献堂されている。

これら神殿の儀式が主の啓示に基づいてもたらされたことを理解していない人々が多い。教会内にさえそのような人々がいる。

主は言われた。「而して、この宮居に関するすべての事、この宮居に関する神権、またその建てらるべき場所などはわが僕ジョセフにわれこれを示すべし。」

(教義と聖約 124:42)

これら神権につける諸儀式は、いわゆる「閉ざされた啓示」のもとに執行され、その目的が教えられるのである。従って備えのない世の人に対して普通の方法では啓示されないのである。

「飢え渴く」心をもって神殿に入る人々は、神と人間の関係について知識と理解を深める。また彼らは、愛する者と共に神の最大の賜である永遠の生命と昇栄を得るために必要な事柄を学ぶのである。

神殿の儀式は永遠の知的成長と発展、無限の祝福、愛する者との絶えざる交わりを約束している。

— も く じ —

予言者のことば

高い山の麓から……………大管長 デビッド O. マッケイ …… 181

子守り歌と暖かいごはん……………ジャニス ハッチンソン …… 182

ドイツ語を話す国々の教会……………ジェイ M. トッド …… 185

管理監督会のページ

人は何者なのか……………ジョン H. バンデンバーグ …… 190

近代の聖典教義と聖約……………T. エドガー ライオン …… 192

日曜学校

すべての人のために……………リード H. ブラッドフォード …… 194

扶助協会

小さな事が大切です……………ルイス W. マドセン …… 197

若人のページ

祈る人の肖像……………デニス ドレイク …… 198

話を聴く時間をつくりなさい……………リン ベーカー …… 199

夢に終らさず……………ドナ グレゴリー …… 201

系 図

新しい記録提出の方法…………… 203

ローカルニュース…………… 205

己れを傷つけ、他を傷つける……………リチャード L. エバンズ ……裏表紙

子 供 の ペ ー ジ

ボジョのぼうし……………ソルベイグ・ポールソン・ラッセン……………48

波止場にて……………マデライン・エカード……………52

イソップ物語…………… 55

今 月 の 表 紙

今月は多くの末日聖徒の先祖の地であるドイツ語を話す国々、すなわちドイツ、オーストリア、スイスの風景である。

上段左：オーストリアの美しい町、セントジルゲン

上段右：ベルンのスイス神殿

中段左：ライン川を見下す中世の城

中段右：スイスの空にそびえるマッターホルンの威容

下段：スイスのルゼルンにある湖にかけられたチャペル・ブリッジ（橋）

スイス神殿の写真提供はチャーチ・インフォメーション・サービス、その他はライン河畔フランクフルトのロービルド氏の提供による。

本文 185 ページ「ドイツ語を話す国々の教会」参照。



＜予者言のことは＞

／出された事に気が付いた。そしてその光が私の上に留った時私は筆紙に尽し難い輝きと栄光とを有ちたもう二人の御方が私の真上の空中に立ちたもうのを見た。そしてその中のお一人が私に言葉をかけて私の名を呼びたまい、他のお一人を指して『これはわが愛子なり、彼に聞け』と仰せられた」（ジョセフ・スミス 2：17）

これは数多くの国語で印刷され、世界中のいたる所で宜べ伝えられてきた。

少年ジョセフは、彼が見たことを周囲の人々に語った時、信じてもらうことができなかった。それどころか、彼は嘲笑され、迫害された。あらゆる反対に答えて、彼は後に次のように厳粛に宣言した。「……私は実際に光を見た。その光の帷中に二人の御方を見た。そしてその方々は真実私にお言葉

高い山の麓から

大管長 デビッド O. マッケイ

あまり身近にいと、物事の完全な意味と大切さを軽視しがちである。今日、我々は新しい重大な発明や発見を、山の麓に立って、たゞ部分的にのみ観察しているようである。その堂々たる斜面、そびえ立つ峰、あたりの山や森の連なりなどは視界からかくれている。しかし、その限られた視界でさえも、我々の目を驚かすに充分である。

なんと力強い事柄が今までなし遂げられ、またさらに力強く未来になされようとしていることであろうか。例えばコンピューター（電子計算機）、自動車、航空機、原子力などの社会に対する多大な貢献をだれがはかり得るであろうか。また医学における現代人の働きに行き着く所を、想像さえもできない。

しかし、これらの事柄も人間にとって最も必要で大切な願いに何一つ答えてはくれない。どれ一つとして、人が長年にわたって求めてきたものを、まだ教え示してはくれない。

人の心に常にある切なる願い——その必要とは、神及び神と人の関係を知らせることに他ならない。顕微鏡は見せてくれないし、望遠鏡も発見してはくれなかった。また宇宙飛行士や人工衛星も人の心の絶えざる間隙を満たしてくれてはいない。およそ一世紀半前に起こった唯一の出来事のみが、人の心にこの答えを与えてくれると宣言している。

その出来事とは少年予言者ジョセフ・スミスに天の二人の御方がお現われになったことであった。そのことにより永遠の天父と御子イエス・キリストは別個のお方であることが明らかになった。それは少年の熱烈な祈りの答えとして、1820年の春に起こったのである。

我々は予言者自身の証からこの事実を想い起こす。「その光の柱が現われるや否や、私はわが身を縛った敵から救い／

をかけたもうた。私が示現を受けたと言うために憎まれまた迫害せられても、なおそれは真実である。……私は示現を受けたのであるからそれが事実であることを身を以て知っている。私は神がそれを知りたもうことを知っている。私はそれを打ち消すことはできなかった。また敢て打ち消そうともしなかった。……」（ジョセフ・スミス 2：25）

このような証は、もし支持されないものであったら、受け入れるに値しないであろう。その文章は、人間の心がすぐにはそのような見神の可能性を信じるのが困難であるという内容に満ちている。しかし、予言者の証は総明な証人たちにより、支持されており、その証言は決して反ばくされたことがない。その偉大な啓示の結果できた教会それ自体が、神よりの靈感の直接の証拠ではないとしても、確かに証しするものとなっている。

その偉大な啓示の真理を受け入れた予言者とその兄弟ハイラム、その他幾百万の人々の生命と生活は、キリストにより教えられた救いの計画が、人をキリストのような人格へと最も確実に導くことを証拠だてている。自らの証を血をもって、ひるむことなく結び固めた予言者と大祝福師（ハイラム）に対する啓示は確かに真実なものであった。

ジョセフ・スミスに天父と御子がお現われになったこと、続いて完全なままに神権が回復され、イエス・キリスト教会が設立されたことはあらゆる時代の最も偉大な出来事の一つと認められるべきものである。すなわちそれは神と人間の関係、宇宙における人間の位置をよく知らせるものであり、国民はもとより個人や団体間の正しい関係を確立する道であり、来たるべき永遠の世界と同様に地上においても、人間の幸せと平安の道を指し示す啓示であるからだ。

子守り歌と暖かいごはん

ジャニス ハッチンソン

チェンは妹の小さな手をぐいと引くと、くずれかけたお寺の塔を急いで通り抜け、人通りの少ない反対側の通りに出ました。急に立ち止まると、チェンはつかんでいた妹の手をふりきって言いました。「さあ、スウ、1人で歩いてごらん、もうすぐだからね」チェンはため息をつくとかがんで妹の服を見ながら言いました。「ほらほら、せっかくきれいにしてやった服がよごれちゃったじやないか。きたない子はいやがられるんだからね。」チェンは立ちあがりながらスウを抱きかかえて、一人で歩くようにと立たせました。スウが弱音をはくとチェンは少しきびしい声で言いました「なんだ弱虫！おかあさんが一緒にいたら何て言うと思う」

チェンは、あちこちくずれているコンクリートの道路をスウといっしょにとぼとぼ歩きながらちょっとの間、両手で顔をおおいました。そして深いため息をつきながら、まだやっと2つのスウに目をやりました。スウのあごは震え、目には涙をためています。「スウ、おなかすいちゃった」そういうと、どっと泣きだしてしまいました。チェンは耐えきれず両手で耳をおおいました。チェンの顔は「泣かないでくれ」と頼んでいるようでした。そしてその目にはまだ12才の子供には耐えきれないような悲しみが表われていました。チェンは急いでスウをひざの上に抱きあげると、やさしく腕の中につつま静かにゆすりはじめました。おかあさんがいつもこのようにやっているのをチェンは見て知っていたのです。しかしチェンは子守り歌を歌っても、かいがないように思いました。というのはスウの泣き声がだんだん高くなり、とても手に負えなくなっていたからです。

「さあ、いい子だからねんねするんだよ。もう泣かないね、スウ。おかあさんが歌ってた子守歌を歌ってあげるからね」

「さあ、いい子だからねんねするんだよ。もう泣かないね。おかあさんが歌ってた子守歌を歌ってあげるからね」

「ねんねころりよおころりよ
しずかに目をとじねんねよう
やさしい胸にねんねよう……」

チェンは静かにハミングをしながらスウの顔をのぞきまし



た。今度はこの子守歌がきいたようです。スウの泣き声は小さくなり、かすかなすすり泣きに変わっていました。ただ、チェンが子守歌を口ずさみながら軽くゆすっている間、ときどきしやったりをしました。スウのまぶたがすっかりとじられると、チェンはホッとしました。今度は子守歌がきいたのです。チェンは自分がかつて歌ってもらった子守歌を思い出してなつかしく思いました。でも自分は子守歌を歌ってもらう時期はもうとくにすぎてしまったのです。チェンはスウに歌ってやる子守歌をひとつでも覚えていて良かったと思いました。

スウをしっかり抱いて、涙でぬれたほほをポロポロのそで口でそっとふいてあげました。そしてしわくちゃんになったスウの洋服をキッチンとのぼしてあげました。このスウの洋服もチェンがバケツにためておいた雨水でいっしょうけんめいに洗ってあげたのです。スウが目をさまさないように、しっかり胸に抱いたままチェンは静かに立ち上がりました。そしてガラスくずやごみくずのちらかっている通りを長い間、ゆっくり歩いてやっと村の入口にたどりつきました。そしてどろどろした田んぼ道をあちこちぬかりながら歩き続けました。途中、スウはちょっと動いてまた泣きだしました。「シート／泣くんじゃない。ほらもうすぐだよ、みえるだろう……」そう言いながらチェンは前方に見えるあかりを指さしました。スウを片方の腕に抱きとると、今度は背中におんぶしました。スウはすすり泣きをしながらチェンの背中に頭をつけるとまた目をとじて眠りました。

村に入ると、チェンは薄暗い通りをどんどん歩いていきました。その途中、ひとけのないあれた家のかどで腰のまがったみすばらしいかっこうのお百姓に出会いました。その通りのはずれまで行くと、とても大きな建物がありました。その入口には小さな看板が掛けてあります。その看板を読んで

よつとの間まわりを見渡すと、チェンは向きを変えてその大きな建物の裏道に入って行きました。今度は少し足を遅くしスウを静かにゆすって起こしました。「さあ、やっとなつたよ。スウ、おきてごらん、さあ」スウをわきにおろすとチェンはぐったりとして壁に寄りかかりました。そしてそこから大きなアーチ形の門をじっと見つめていました。ここに来るのが目的だったのです。チェンの胸はドキドキとまるでおびえた小鳥のようでした。

チェンはスウがだんだん自分の方に寄ってくるのを感じました。それでもチェンは、だまって、薄暗いひっそりとした裏道やしめきってあるそのドアの方に目をやっていました。

チェンの様子はいつもと違っていました。何げないふうでスウに話しかけました。「さあ、きれいにしなくっちゃ……」そしてチェンは小さくしをとり出すとスウの短い黒髪をきれいにとかしました。スウは顔をあげるとにっこりして、そのかわいらしい手で髪をなでました。チェンは胸がいっぱいになり、眼に涙があふれてきましたが、すぐぬぐいました。そして洋服のしわをいっしょうけんめいにのぼしてやりながら言いました「さあ、これで大丈夫だ、とてもかわいい」

ポケットから紙切れをとり出すとドアの下からさし込んでくる薄明りでチェンはその紙の上にゆっくりと何か書きはじめました。

「どうぞ妹のめんどろをみてやって下さい。おとうさんもおかあさんもずっと前に死にました。ぼくはまだ12才なので、小さな妹に食べさせてやるだけの力がありません。最近この『救貧院』のことを耳にしたので、さっそく妹をつれてきました。妹の名前はスウ・イングです」二度くり返して読んだあとチェンはスウの手にこの手紙をにぎらせて言いました。「いい子だから、あのドアのところに立っているんだよ。」そうしてチェンが去ろうとするとその後をスウが追いかけてきました。「だめ、だめ、だめだったら……」そう言いなが

らチェンはやさしくスウを押し返しました。「すぐもどってくるからね。ここで待ってるんだよ。きっともどってくるから……」あとは言葉がつかまらなかった。チェンはうそを言ったのです。でもお父さんもお母さんもいつかはこのうそを許してくれるだろうと思いました。

チェンはかがんでスウのほかにキスをして、自分の首にしがみついているスウの小さな手をゆるめました。そして急に鼻をくくんさせました。ジャスミンのいいかおりがします。このジャスミンのかおりがチェンの心を落ち着かせてくれたようでした。チェンは無理に笑顔をみせて言いました。

「いいかい、スウ、とてもすばらしいことがあるんだ」その建物のどっしりとしたドアを指さすと言いました。「あのうちの中にはね、食べ物がたくさんあるんだよ。だからもうお腹がすいても泣かなくていいんだ。それにベッドだってある。ねえ、スウ考えてごらんよ、ふわふわしたかけぶとんのあるベッドだよ。そこの家の人たちはおまえをやさしくむかえてくれるだろう。そしてひよっとすると、おまえをアメリカに送ってくれるかもしれない。そう聞いてきたんだ」チェンはちよっと頭を下げました。「アメリカっていう国はね、とてもすばらしいんだよ。おまえが食べたい食べたいといってたごはんが何ばいでもおかわりできるんだからね。それにやさしい女の人がおまえのはだしの足にくつを買ってはかせてくれるし、洋服のやぶれたところだってつくろってくれるんだ。」スウは自分の洋服のやぶれているところに目をやり今にも泣きそうようすでした。チェンはにっこり笑いながらスウの手をとって言いました「ああ、だいじょうぶだよ。今はそんなこと気にしなくていいんだ。スウはとてもいい子だから、洋服がちよっとぐらいやぶれていてもみんなきっと好きになるよ。それに、そのやさしい女の人スウをだいて子守り歌も歌ってくれるかもしれない。お兄ちゃんはあまりうまくないからね。子供をだいたり子守り歌を歌うのはやっぱり女の人の方がじょうずだよ」スウは手の中にまだあの紙切れを持ったまま、兄のチェンの言うことをいっしょうけんめいにきいていました。「それにアメリカの人たちはみんなとても幸せそうなんだ。家庭の中も幸せでいっぱいなんだよ。なぜかわかるかい？それはね、その家のおかあさんが子供たちに子守り歌を歌ってやったり、洋服をつくろってやったり、ごはんを作ってくれるからなんだ。だけどねスウ……」チェンは悲しそうに首を横にふりながら言いました「お兄ちゃんにはなにもできないんだよ」。スウはチェンの言っていることをわかっていっしょうけんめいでした。チェンはため息をついて言いました「ああ、こんなこと言ってもスウにはわからないだろうな」チェンの胸はいっぱいでした。

「幸せになるんだよ、スウ……」

そういうとチェンは目をパチパチさせて涙を払い、その建物の戸口の方へ行きました。そして2、3回静かにノックすると裏通りのはずれの方をめざしていちもくさんにかけ出していきました。スウはびっくりして泣き出すとチェンのあと

を追いかけてやめました。チェンは後を向いてきびしい声で言いました「スウ、来ちゃだめ！もどるんだ、さあ、はやく！」戸口の方を指さしながら言いました「すぐドアをあけてくれるからね。見ててごらん。だれか出てきたらその紙切れを渡すんだよ。いいね。さあ、ドアを見てて！」ちよっとの間スウは後を向いて明るい火のともっているドアを見ていました。この時ばかりとチェンはいそいで数メートル走り、小さな門のかげにかくれました。身をかがめたまま息を殺してじっとようすを見ているとドアがあいて家の中の光がスウの顔を照らしました。スウは出て来た二人の婦人の顔をじっとみつめています。チェンはゴクリとつばを飲みました。一人の婦人はスウの前でひざまづいてその手でやさしくスウを抱きました。そして何か話しかけて、スウがにっこり笑っているのが見えました。チェンもにっこりしました。

スウが紙切れをひろげると、そこにいたもう一人の婦人がとりあげて読みはじめました。その間、チェンは息を止めているようでした。読み終わると婦人はふり返って中にいる人に何か合図をしているようでした。やがて別の婦人が現われて、こんどは「まあ」とか「かわいそうに」という興奮した声がチェンの耳に入りました。スウを抱いてくれた最初の婦人はまだひざまづいたままスウをやさしく腕に包むと他の婦人たちといっしょに部屋の中に入っていきました。ドアは閉まり外には再び静かな夜がもどりました。

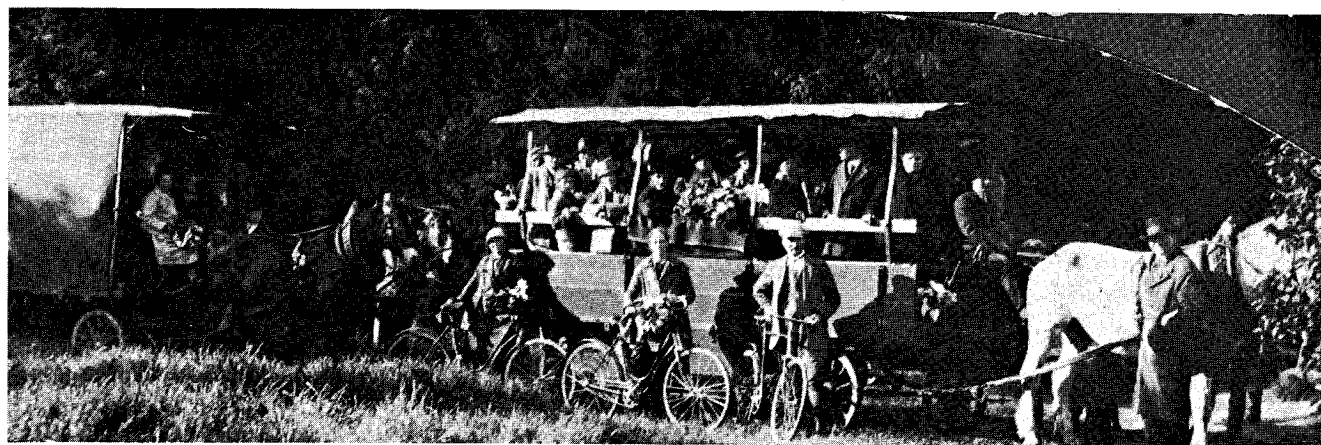
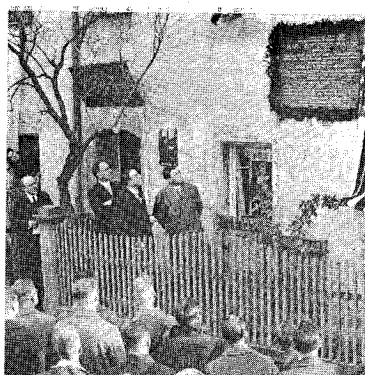
チェンはかがんでいた姿勢をもとにもどすと、少しの間そばにある大きなたるによりかかってすわりました。まったく静かな夜です。チェンはスウが最後に立っていたその暗い裏通りに時々目をやりました。そしてワイシャツのボタンのとれているところを手でつかみながらズボンのほこりをはらいました。

チェンはあの婦人がスウを抱いてくれたのがうれしかったのです。きっと子守り歌だって歌えるに違いない。そう思いました。顔をあげて空を見ると銀色の月の光りはうすらいでもうじき夜があげようとしていました。ゆっくり立ちあがると足で石ころをけりながら裏通りをぶらぶら歩き出しました。ためらいながらちよっとの間ふり返って明りのともっているドアに目をやりました。チェンは自分でうなづきながら思いました。スウには子守り歌とあたたかいごはんが必要だったんだ。大きく背のびをしながらチェンは深いため息をつきました。夜の影はしだいに朝日にとけこみ、家々にその光を投げかけようとしています。

チェンはその「救貧院」のことを知って本当に良かったと思いました。「そうだ！」チェンは思いました。「今日、この日こそ本当の感謝祭なんだ。」そう考えて、楽しい気持ちになろうとしましたが、重い足をひきずりながら静かな通りを歩いていくチェンの心の中にはどうしようもないさびしさがありました。



上 1904年、村から村へ旅行する宣教師
中央 カール・ゴットフリード・メーザーの生家、1928年1月16日
に額をかけた
右 ブリガム・ヤング大学の創設者、カール G. メーザー
下 1927年、プレスロー南支部日曜学校の遠足



ドイツ語を話す国々の教会

ジエイ M. トッド

19世紀後半から今世紀の初めにかけてドイツ語を使う国々は他に類を見ないほど各方面にわたって繁栄をみた。この時期に、はるか西方の国からこれらの国々へ初めて若いモルモンの宣教師が訪れた。繁栄は、国家の権勢であり、また商業教育的業績、科学的成果、文化的諸活動と実に多方面に及んだ。

天賦の知力と高貴な精神を有するドイツ人の名声は、今まで人類が成しとげた業績のほとんどあらゆる面で知られている。すなわちマルテン・ルーテル、ゲーテ、バッハ、ベートーベン、ワーグナー、コペルニクス、カント、その他文字通り何十人とあげられる。

19世紀の後半には、ドイツは科学のほとんどあらゆる分野において指導的地位にあった。また大学でも有名であった。そのためドイツは学生のメッカとして世界中に知られていた。

またヨーロッパ大陸では軍事的にも産業的にも最強の国と見なされていた。ドイツは活気にあふれた国であり、また自信満々とした国であった。そして1871年といった、ごく最近になってから、ビスマルクの指導の下に都市共和国と州共和

国とを連合し、ドイツとして知られるにいたった。この国はヨーロッパの列強の内では最も若い国であった。知的、軍事的な誇りが渦巻く中へ末日聖徒の宣教師はけんそんと平和の種を播き始めた。困難なことであった。

だが、教会の会員で最初にドイツへ第一歩を印したのはアメリカ人の宣教師ではなくてイギリス人の改宗者、ジェームス・ハワードであった。彼は鋳物工場で働くためにハンブルグへ出かけていった。イギリスの教会の兄弟たちの要望によって彼は福音を説いたが、次のような状況を知った。すなわち1840年9月19日の妻宛の手紙によれば「ハンブルグでは私は兄弟たちの援助なしでは何もできない」と記している。

オルソン・ハイドがパレスチナへ旅行する途中ドイツに10カ月間も立ち寄ったにもかかわらず、10数年の間、ドイツでは福音はほとんどひろがらなかった。ドイツでは1851年に初めてバプテスマが行なわれた。その当時でさえも進展は遅々としたものであり、その上かなりの政府の反対があった。すなわちまず一人の長老が、続いて別の長老が、ドイツ連邦を

形成している自由市あるいは共和国から追放された。1855年、すなわちモルモン経がドイツ語で出版されてから3年後までに、ドイツではわずか166人が教会に加入したにすぎなかった。この前年1854年までにはスイスでは144人の改宗者を得てドイツにいくらか優る成果をあげていた。

1860年代になって、改宗者が急増し前途は明るくなってきた。ドイツとスイスの伝道を管理するように召されたドイツ人の改宗者カール・ジー・メーザーは1868年に次のように書いている。「しばらくの間伝道部のいたるところで、ちょうどそよ風が吹く前の水面のさざ波のように、これから何かしら変化が起こることを示すたくさんの事柄があった。この地が今までとは違った霊的なものに満たされつつあることは明らかであった。」

1870年にメーザー兄弟がプロボウの新ブリガム・ヤング・アカデミーを管理するため再度ユタに戻るまでに、約600人が教会に加入しており、ほとんどはスイスにおいてであった。しかし、宣教師がであうおおかたの人々の反応はC. W. ウイルッケン長老によって次のように報告されている。「ドイツ人は言う。自分たちは今日天使が現われ、人間が啓示を受けるということを信ずるほど愚かではないと。私がホルスタインで伝道している時に、人々は私の話を聞いて笑い、そのようなことは文明人に伝えることではなくてインディアンにこそ伝えるべき事柄であると言った。」

そのような状況は続いた。教会加入者が数千人というイギリスやスカンジナビアと対比的にドイツ語の国々の教会活動は不成功と言っても良いような状態であった。支部が所々にできてはすぐに廃止されたり、人々が無関心で政府から冷遇されるような状況が19世紀から20世紀の変わり目まで続いた。とりわけスイスでは改宗者の数は特に少なかった。1860年から1960年までの1世紀にわたって、年間改宗者のバプテスマ数はこの間の最高である1862年の約300をいつも下回っていた。

教会に加入した人たちはほとんどなくして、自分たちの子供を末日聖徒の中で育てていくにはアメリカへ移民しなければならぬことに気付いた。このようなやり方は約30年前までドイツ語を使う聖徒たちに引き継がれてきていた。1875年のドイツの経済的破滅はこの移民に一層の拍車をかけた。恐慌の後に約250万のドイツ人がアメリカへ移住したと言われている。

毎年新しい宣教師が訪れ、そして年々「町からひとり、氏族からふたり」（エレミヤ書3：14参照）バプテスマの水に入った。しかし、その真理の使者たちに対して、人々は間接的、直接的に敵意を示した。それは次に引用する伝道部の歴史的記録により明らかにわかる。

1875年——バーデンにおける伝道の出願が拒絶さる。

1876年——スタッキイ伝道部長拘引さる。パンフレット出版の故に罰金に処せらる。

1880年——宣教師たち投獄され、追放にあう。

1883年——オーストリアで最初の改宗者バプテスマを受ける。

1897年——宣教師探索のため集会はばまる。書物没収さる。

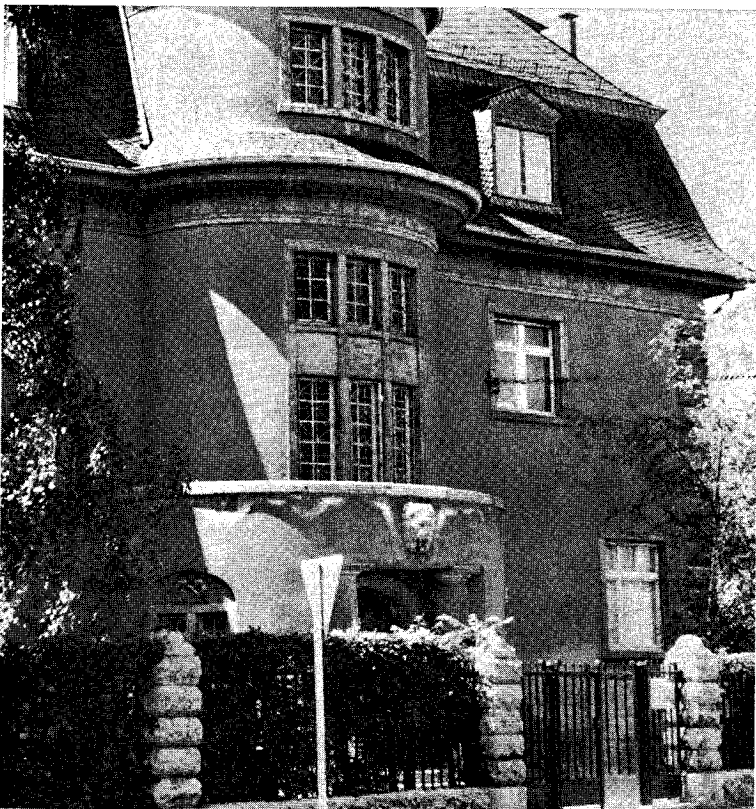
1900年——サクソニーにおいて、長老たちは当局から日曜学校を開くこと及び18才以下の子供たちを集会に出席させることを禁止する旨通告を受く。同様小冊子を配ることも禁止さる。

新世紀が始まろうとしていた。たとえばほんの一部と言ってもドイツの新しい精神が開かれようとしていた。1906年に、当時第一副管長の職にあったジョセフ・F・スミスが海外旅行に際してドイツを訪問した。それから1年後、スイス・ドイツ伝道部のサージ・F・バリッフ伝道部長は次のように書いている。「私があちらこちらと旅行している時、私は福音を受け入れると思われるたくさんの人たちに会った。私は確かにそんな気がした」。彼の感じたことは正しかった。それからの3年間に2,500人以上の改宗者がバプテスマを受けた。その数はドイツ語を話す国々における今までのバプテスマの記録を打ち破った。

けれどもアメリカに本部を持つ教会に対する抵抗はなくなったわけではなかった。4年後の1914年8月30日、ドイツに教会本部から驚くべき指令が届けられた。すなわち「全宣教師を解任し、ただちに彼らをロンドンに向かわせるように措置をとること……。」200人近くの宣教師がスイスとドイツの約60の支部を後にしてロンドンに向った。第一次世界大戦が始まった。

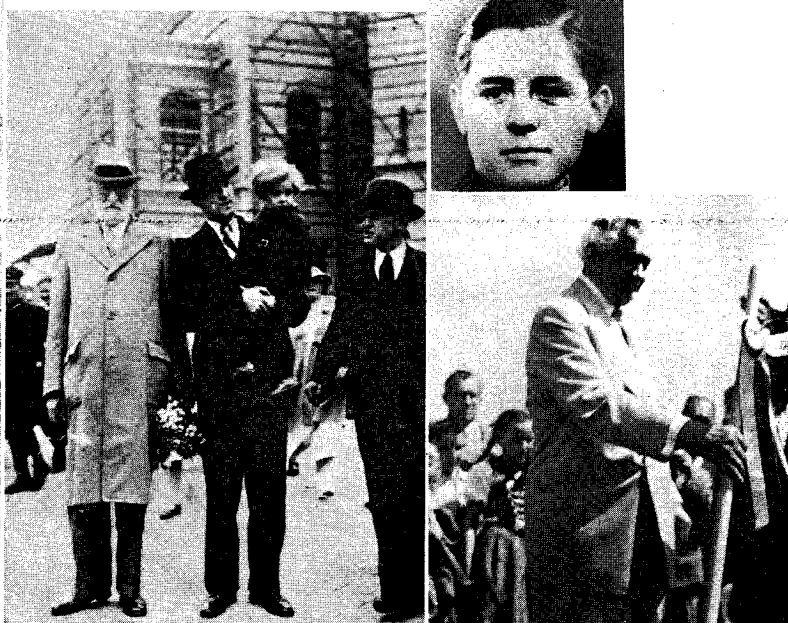
その月から3年後に、オウガス・J・キャノン伝道部長はドイツ国内の支部を訪問する許可を政府から得た。彼は次のように報告している。「避け難い戦争の被害に依って、すなわち支部の多くの指導者や会員は軍務につかれ、ある者は再び戻ることもないといった状態によって、ある支部は分解し、他の支部は人数が著しく減少していた。しかしながら、このような状態にもかかわらず、多くの、いやむしろほとんどの支部は何らかの形で組織を維持しており、また会員の動向を知っており、出来る時はいつでもまたどこでも集会を開いていた。」このようなあり様は20年後にアドルフ・ヒットラーが「指導者」として全権力を握った時にも繰り返えされたのであった。

二つの世界大戦の間の20年間にドイツ語を話す国々における教会は非常に盛んな時期を迎えた。世界に再び平和が訪れると平和の君の計画が再び心の正しい人たちの胸ににじんでいた。1920年にスイス・ドイツ伝道部を再調査した時にサージ・F・バリッフ伝道部長は次のように語った。「伝道部には60人余の宣教師がいる。彼らはお金も書物も持たずに旅行している。彼らは謙遜であり、いつもお祈りをし、清潔であり純粋であり、また必要とされる事なら何でもする気がまえてい



ドイツのフランクフルトにある教会のビル、この建物には建築、法務、翻訳、系図、不動産の各部門が入っている。

1942年10月17才で断首されたヘルムット・ヒューブネル
1953年スイス神殿の歟入れ式におけるマッケイ大管長



1934年、プレスローにおけるヒーバー J. グラント大管長、地方部長ワーナー・マーチン・ホップとその子息、第一副地方部長リチャード・デュース。

る」

1925年までドイツの伝道部は以前にも何回かそうであったように分割されていた。つまり登録会員6,125人のドイツ・オーストリア伝道部と、同じく5,305人のスイス・ドイツ伝道部の二つにわかれて双方合せて11,000人以上のドイツ語を話す聖徒たちがいたのであった。

それはしっかりとした着実な教会の成長のための土台であった。P. R. 雑誌の1ページを使ってドイツの聖徒たちは1930年に教会の100年祭を祝った。その時数々の陳列や展示をし、たくさんの人々の注意を引きつけた。ドレスデンにおける展示では250,000部以上の知恵の言葉の小冊子が人々の手に渡り、ベルンでは聖徒たちは衛生と体育に関する博覧会を催し大勢の友人を得た。「ドイツの新聞からこれほどの好評を博したのは初めてである。」とフレッド・タッジ伝道部長は語った。当時、ヨーロッパ伝道部長であったジョン・A・ウィットソー長老はその後ドイツとスイスの聖徒たちについて書いている。「全教会でこれほど信仰強くまた献身的な聖徒はいない。」

しかし悪の力は怠惰ではなかった。ナチの兵士たちがうろつき、政府の教会に対する態度は間もなくその正体を現わした。1933年の5月、ナチの兵士たちは聖徒たちの集会を妨害した。同月にドイツの他の伝道部の二人の宣教師が制服の兵士になぐられた。1934年に教会のボーイスカウト活動はナチ政府の命令によって解体させられ、そして小冊子「神の権能」

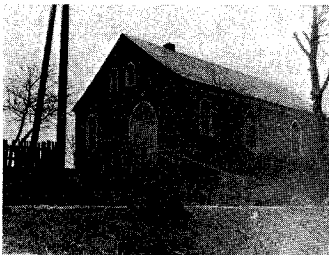
は禁止された。1年後にジェームス・E・タルメージ長老著の「信仰箇条の研究」が禁止になりこの本は全部燃やすように命令が出された。1937年に残りの大部分の教会の小冊子の配布許可が撤回された。1年後、数人のドイツ人の教会指導者が投獄され、彼らが宗教的な義務をはたしたことに対して大逆罪が科され、ヒットラーの影がおおいかにさびてきていた。

これらの困難にもかかわらず、正義の力は来たるべき時に備えて準備を怠らなかった。1935年7月2日にドイツにいる全宣教師に次のような指令が出された。すなわち指導者にふさわしいドイツ人の会員を見つけ出し支部の指導者に任命するようにと。主の忠実な僕は神権の原則に無関係に放っておかれることはなかったのである。

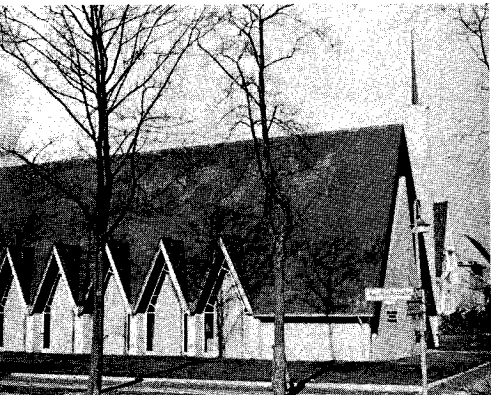
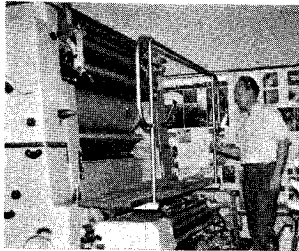
この指令は決して早すぎたわけではなかった。と言うのは1939年8月25日、使徒会のジョセフ・フィールディング・スミス長老がドイツにやって来て、全宣教師はただちに国外に退去するようにと命令された。そしてこの時に、第二次世界大戦中の最も感動的な話の一つが起こったのであった。M. ダグラス・ウッド伝道部長は、背が高く90キロもありそうなアイダホ州出身の宣教師を事務所へ呼んだ。「長老、ここからドイツ国境までの範囲内で31人の宣教師の消息がつかめていない。彼らを捜し出し、国外へ退去するのを確かめて欲しい。」

この若い長老は500マルクのお金と数枚のロンドンとデンマーク行の切符を持って出発した。彼は徹頭徹尾、自分の意

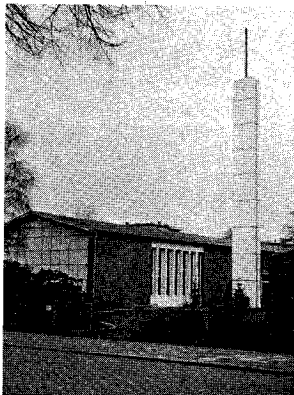
元東プロシア、現在はポーランドのセルボンゲンにある礼拝堂、今もなお集会が開かれている。



ヨーロッパの統一機関誌を印刷するオフエンバックのギーゼ印刷会社



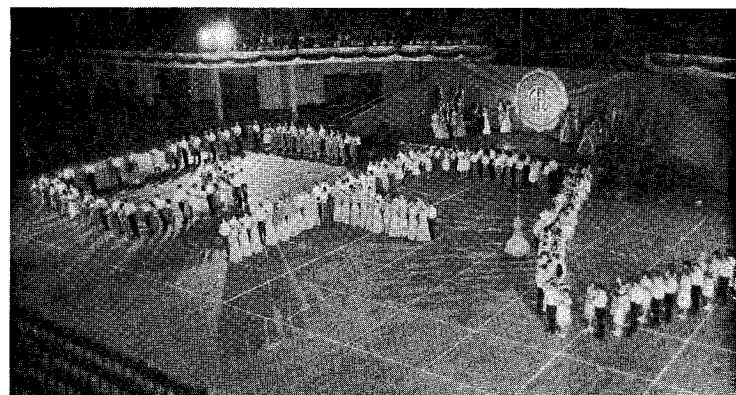
ベルリン・ランクッツ・ワード部
1964年3月1日、エズラ・タフト・ベンソン長老により献堂された。



ハンブルグ・ステーキ部センター。



1966年のユースコンファレンスでライン下りに参加する若人。



1965年のユースコンファレンス、ダンスフェスティバルのフィナーレ、MIAに代るG F Vの文字がつけられている。

のおもむくままに行動するようと言われた。彼は汽車に乗り西方へ向った。しかし何処へ行くのかは自分でもわからなかった。コログネは彼の目的地ではなかった。しかしここで降りるべきだと強く感じた。コログネの大きな駅は何千人という人で混雑していた。この人混みの中で一体どうして行方不明の宣教師を捜し出せるだろうか。彼は讃美歌「正しかれ」を口笛で吹き始めた。そうすると駅の隅の方にいた一人の長老と、夫婦の宣教師がこれをききつけた。直ぐにデンマーク行の切符が手渡された。

この背の高い長老はまた汽車に乗った。国境の駅でまた町々で降りて自分の使命を続けていった。そしていつも自分の心に強く下車すべきだと感じた時だけそうした。靈感に導かれるままに彼は17人の宣教師を捜し出した。これらの宣教師たちはその夜全員ドイツを退去することが出来たのであった。ほどなくして、ドイツにいた全宣教師が国外に退去し、しかも全員無事である旨の連絡が伝道本部に入った。7日後フランスとイギリスは宣戦を布告した。

戦時中のドイツとオーストリアの教会の歴史は感動的な物語で埋めつくされている。だれ一人として公然とナチスを非難しなかったその時、三人の若い教会の会員がそれをしたのであった。この若者たちは英国の放送を聴取し、状況を印刷して公然と人々に配布した。3人の内の一人ヘルムット・ヒューブネルは大逆罪の宣告を受け斧で断首された。残りの二人は捕虜収容所入りの宣告を受けた。今日、ハンブルグには

この勇気ある末日聖徒の若いグダット兄弟をたたえる建物があ

る。ドイツの支部の人たちは、痛ましい苦労を重ねながらそれでも努力を続けていた。その努力は、例えばルール地方で空襲を受けた教会員のために力をつくしたアルトナ支部のように、空襲にあつて財産をなくした聖徒たちのために衣服を集めたことである。

1943年から1944年にかけて、アリスが激しい攻撃を受けた時、聖徒達は幾度となく空襲に備えて聖餐会や日曜学校の集会からにげるように靈感を受けた。

戦争の終結も近くなった1945年に地方部長のウィリー・デッテルスが書いている。「天は炎の門を開いた。各支部を訪問することは、ほとんど不可能となった。空襲は絶えずあった。夜は息つくひまもなかった。たくさんの兄弟たちが召集されて軍務についた。年令は15才という非常な若年から50才を越すような老年にまで及び、祖国を救うための『市民軍』という組織に入った。理性は今や狂気に変った。」

戦争は恐怖と破壊をもたらし、家をなくした人や死者を何百万人も出した。知られる限りでは600人の聖徒が殺された。また他に2,500人は戦死し、聖徒たちの80パーセント以上は家を失った。プレーメンでは聖徒の95パーセントが家を失った。食料はほとんどなくダンツィヒでは教会員は雑草、猫、犬、わずかばかりのじゃがいも、それに動物の死骸を食べて生きていた。老人や病人はこのような物すら入手出来なかつ

たので、これらにも什分の一の考え方をあてはめることにした。それに従って最も貧しい人々のために、入手した物の什分の一を差し出した。福音の力、福音の感動的な力に対する非常に素晴らしい証があった。人類の最悪の行為、戦争の犠牲になった信仰強い聖徒たちは、恐怖、飢え、貧窮の厳しい試練を受けて強い兄弟愛を発揮した。

1945年、ヒーバー・J. グラント大管長が亡くなられた時いくつかの支部では追悼式が執り行なわれた。ベルリンでは175席のホールに300人以上の聖徒が参集した。その中には軍務についているアメリカの聖徒がたくさん混っていた。伝道部の記録は次のように告げている。「カーキ色の軍服の男女は快よく迎えられた。彼らは入口でドイツ語で『兄弟ですか』ときかれた。答が『イエス』であれば扉は大きく開かれた。兄弟の意の『ブリューダー』は一種の合い言葉となった。」

国家、人民、家庭、それに個人の生活の再建が最大の関心事となった。数カ月を経ないで十二使徒会のエズラ・タフト・ベンソン長老が聖徒たちの援助に必要な物を調査して、何トンもの衣料品や食料品を困窮している聖徒たちに援助出来る途を講ずるためにドイツにやって来た。

1年後にオランダの教会員はドイツの教会員のためにジャガイモを船で送った。そしてドイツの聖徒たちは一人当たり10キロ余りを受け取った。デビッド・O・マッケイ大管長はこのオランダの聖徒たちの行為について語った。「私を感動させた真のクリスチャンとしての行為の一つである」また福音による絆は国家間の障壁を物としなかったのであった。

程なくして、教会の大会が開かれた。1946年に、シュツットガルトでは、西ドイツの神権者の集まりに800人以上も出席した。西ドイツ伝道部の大会はライプツィヒで開かれ、11,981人が出席した。この数はヨーロッパの今までの教会の集会では最も多いものであった。

1947年まで何人かのアメリカ人の宣教師が再度ドイツへ渡り始めた。しかし、間もなく彼らの伝道範囲はせばめられることになった。連合国の一員だったロシアは、ベルリン封鎖を強行して、その為政者の悪くつなもくろみを明らかにした。自由を否認する他の出来事もあって、程なくしてドイツは現在の西ドイツと東ドイツに分割されてしまった。現在、西ドイツだけで回復された福音を伝える宣教師が働いているのである。

ドイツ語を話す国々における過去18年間の伝道をかえり見ることは必然的にデビッド・O・マッケイ大管長の教会管理の成果を部分的にはあるがふり返って見ることになる。その成果たるや実に驚くべきことであり、端的に次の事柄であらわされる。すなわち5つのステーク部(ベルリン、ハンブルグ、シュツットガルト、スイス、それに何千人という合衆国の軍人のヨーロッパステーク部)、6つの伝道部、スイスのベルンにある神殿、それにフランクフルトにあるヨーロッパ大陸教会本部、これは法務、不動産、建築、系図事務、印刷、翻訳

配送事業、その他、社会、政府、報道関係の便宜のために設置されたものである。マッケイ大管長は1952年にスイスとドイツを旅行された時これらの目覚ましい業績の先駆けをなされた。讃美歌「感謝を神に捧げん」が神聖にそして敬けんに歌われた時、大勢の人が涙を流した。

3年後にタバナクル合唱団がドイツとスイスを旅行し、スイス神殿の献堂式で歌った。この折にモルモン教徒の善良さと礼儀正しきを通じて両国の人々に善意を広め、人々を感動させた。

神殿の開会において、ベンソン長老は次のように述べた。「118年前にこの地に初めて福音がもたらされて以来、このヨーロッパの地でおきた事柄はわが教会における最も偉大な出来事です。どここの地にあってもヨーロッパの人たちが示した強い信仰に劣らずと言えど優る信仰を見ることは出来ません。」

今日、3万人余のドイツ語を使う聖徒たちが自由と安寧を、またドイツ、オーストリア、スイスの発展を享受している。他の地と同様に、教会は増々友好的な気持と尊敬を得てきている。たくさんのヨーロッパ人がアメリカ空軍の放送を聴き毎週放送されるタバナクル合唱団のコラスを楽しんでいる。

今まで、教会は町から村へと二人でめぐり歩く若い宣教師に象徴されてきた。しかし、今日では新しいシンボルが人々の目につき始めてきた。すなわち、美しい礼拝堂、ステーク・センター、それに著名な末日聖徒たちである。教会員の名簿からは、成功した実業家、才能ある名匠、新聞編集者や記者、医者、歯科医、教師、大学教授、建築家、芸術界で著名な人たちを見つけ出すことができる。

現代の通信設備はこれらヨーロッパの聖徒たちを教会本部に強く結びつけている。教会の年次総大会は専用線でヨーロッパのステーク部、ワード部に中継される。これに加えて、ドイツ語を話す国々の教会員は教会の機関誌「デル・シュテルン」(星)で感動的な、素晴らしいメッセージを読むことができる。この本は今年発刊100年目を祝った。新しく刊行された教会の17カ国語のユニファイドマガジン(統一機関誌)の一部として、デル・シュテルンは教会の指導者によって管理・編集されている。

年2回開かれるドイツのユース・コンファレンスはその会の素晴らしさのために、合衆国のMIA六月大会と同じように人気があり、また有名である。多くの関心が寄せられるのは他でもなくこれらの若人である。彼らのほとんどは年若い改宗者である。ドイツ語を話す国々を訪れたことのある数多くの教会の指導者たちはこれらの若者たちについて次のように語っている「教会で最も素晴らしい若人たち」、「どこに住んでいても非常に才能があり、しかも明るい」、「著しく霊的で、しかも指導性を身につけている」。

明らかに、ドイツ語国における教会の物語の新しい章が今まさに始まろうとしているのである。

人は何者なのか

管理監督 ジョン H. バンデンバーグ

十年前には一般的に力の源は文字通り馬の力でありました。畑を耕したり乾草を運んだりする時、大きくて立派な数頭の馬に引かせている光景をよく見ましたし現在でもそうです。その馬具の一つでよく使われるものに、真直ぐ前方を見るだけにして右も左も見えないように馬の目の外側につけた目隠し皮があります。これらの目隠し皮は馬を御しやすくします。

同じような方法で、サタンは人間をもっと容易に御しやすくするため人々に目隠し皮を付けようとたくらんでいます。そしてサタンは人々に自分自身がだれであるかわからないようにしようと思っています。サタンは人類が地球上にくる以前は神様と共に生活していたという事実を人々に隠そうとしており、現世での自分たちの行ないによって定められる所で死後住まなければならないということを隠そうとしています。サタンのたくらみは、この現世の生活が全てであるという考えを人々に持たせることにあります。

サタンが唱道した原理はモルモン経の予言者によって次のように明らかにされました。すなわちそれは「われらは明日死ぬかも知れないから、飲んだり、食ったりして楽しめ、そうすればわれらは、幸福で満足である」……（Ⅱ ニーファイ 28：7）であり、この原理は今日の世にはびこっています。私たちは、ある若い人々が麻酔薬や不道德やあらゆる種類の墮落で自分たちの人生を台無しにしているのを見聞します。このことは彼らが自分たちが実際どのような存在であるか、また自分たちの行ないの永遠の結末がどうなるか解からないでやっていることなのです。

サタンは人々が自分がなにものであるかということを悟る時一人一人にどんな力が生じるか、はっきりと知っています。真実自分がなにものであるかわかる人は、永遠の前途の中に自分の人生を見つけることができます。そしてサタンのたくらみは役にたたないものとなり、破滅してしまします。

「私は何者であろうか」という質問に対する答えを理解するのが大切なことは無論のことです。イエスは御自分が真実何者であるかということを知っておられたので完全な生涯を歩むことができました。イエスは年若い時にさえも、天父の御意について自分がどうあるべきかを知っておられました。（ルカ伝2章49節参照）

救い主はご自分が神の御子であったことをお知らせになっていましたし、ご自分の使命がなんであるかご存知でした。そしてそれに応じて行動なさいました。予言者ヨハネは主を「言」として述べています。

「初めに言があった。言は神と共にあった。言は神であった。この言は初めに神と共にあった。すべてのものは、これによってできた。できたもののうち、一つとしてこれによらないものはなかった。この言に命があった。そしてこの命は人の光であった。光はやみの中に輝いている。そしてやみはこれに勝たなかった。そして言は肉体となり、わたしのうちに宿った。わたし

たちは、その栄光をみた。それは父のひとり子としての栄光であって、めぐみと、まこととに満ちていた。」(ヨハネ 1 : 1~5, 14)

救い主はご自分が何者であるかをご存知だったので、邪悪と誘惑を克服する偉大な力をお持ちになっていました。

このことは私たちに「私は何者だろうか」と考えさせます。

私たちは神様の息子であり娘であります。そして私たちはこの地上にくる以前に神様と共に住んでいました。使徒パウロは、この偉大な真理を「御霊みずから、わたしたちの霊と共に、わたしたちが神の子であることをあかしして下さる」(ロマ 8 : 16) と証しています。

私たちは神の子供たちですから、パウロは、私たちが「神の相談人であって、キリストと共同の相談人」なのである(ロマ 8 : 17) と言っています。このことは、もし私たちが「神の御霊に導かれている」(ロマ 8 : 14) なら、そして神様の誠命を守るなら、神様のごとくなれることを意味しています。

私たちがほんとうは何者なのか、また私たちの永遠の可能性がなんであるか理解することによって、私たちは秀れた者となれます。

ペテロが「……あなたがたは、選ばれた種族祭司の国……聖なる国民……である」(1 ペテロ 2 : 9) と述べたごとくであります。

若いニーファイ人の将軍モルモンが自分が真実何者であるかを理解することによって墮落したニーファイの民から遠のいたように、あなたも世の良くない人々から遠ざかり一人の指導者となるべきです。

指導者とは、目標や目的に真の洞察力と理解をもっていて熱心にそれを追求する人であります。あなたたちは、そのような指導者でなければなりません。なぜなら、世の中の他の人は、若くても、年老いていても、末日聖徒イエス・キリスト教会の会員であるあなたたちが持っている人生の真の目的をだれも持っていないからです。

あなたたちに対するチャレンジは主がヨブに語られたことと同じです。すなわち「あなたは腰に帯して、男らしくせよ」そして主の「わたしが地の基をすえた時、どこにいたか」そして、あなたは真実何者であるか「もしあなたが知っているなら言え」という質問に対する明らかな答えを得なさい。

自分が真実何者であるかという霊的確証を得て信頼と力を受けた人の素晴らしい例として、後にペテロと呼ばれるようになった、粗野な漁夫シモンの話があります。ペテロが伝道者として召される時、実際彼は「学のない者」と呼ばれていました。しばしばペテロは、衝動的でぶしつけでした。そして、ペテロはその召にあずかっている間救い主と共にいましたが、キリストが重大な試練に立たされた時、主との交わりを否みました。十字架上の刑が終って、ペテロは救い主の伝道の深い意味に関して多少困惑していました。事実、ペテロは元の仕事である漁師の仕事に戻ることにについて考えていたのです。

さらに主は、ペテロが自分の使命の真の目的を知った時、彼の弱さにもかかわらず、偉大な力ある指導者になるだろうということを知っておられました。ついにペテロは聖霊からその確証を受け、その瞬間から力あふれる指導者となりました。迷いも、自信も持たないで行動するのではなく、確信をもって統治者の前でも街頭でも、イエス・キリストの福音について証しました。

今日、サタンは実にいろいろな策略で、少しの間ペテロを目くらにしたように、死にもの狂いになって私たちを混乱させたり、目くらにさせようとしています。サタンは私たちが、人生の真実はただ単に世俗的な事と快樂だけを追うことであると考えようになくんでいます。サタンが私たちの永遠の目的をばかしたり、社会的名声をどんな犠牲を払っても追求させたり、せつな悦びを求めさせたり、また私たちが真実何者であるかを忘れさせることができたなら、サタンは私たちの永遠進歩に対する戦いに大きな勝利をおさめることになるでしょう。

一方、サタンの力に対抗して最も力ある攻撃は永遠の観点から自分はほんとうは何者であるか、また、自分の可能性はなんであるかということを理解することです。人生の計画と目標を知って生活することより大きな力はありません。同時に、あなたの両親や、監督や、特に自分自身が、あらゆる点で聖く、価値がある人間であると答えられることであります。このような事が実現した時、人はほんとうは何者なのかという知識や人の永遠の可能性を、世の多くの人に今まで目隠ししてきたサタンにあなたは打ち勝ったのです。

近代の聖典

教義

と

聖約

T. エドガー・ライオン

末 日聖徒イエス・キリスト教会が所有しているすべての聖典の中で教義と聖約こそ、まさに「近代の聖典」と呼ぶにふさわしい唯一のものである。モルモン経、モーセの書、アブラハムの書も、確かに再び見出されたという意味では近代的であるが、旧約時代と平行する過去の遠い時代を扱っている。しかし、教義と聖約は、それにふくまれるメッセージと同様に、起源そのものが近代的なのである。この回復された神権時代の基本的な聖典が教義と聖約である。

聖書、モルモン経、モーセの書、アブラハムの書は、すべて価値ある書物である。しかし、これらだけでは、どの一冊として、福音を理解する完全なガイドとしての機能をもてない。教義と聖約の教えに精通していなければ、これら四大聖典のすべてから、教会の教義の多くについて一般的な概念しか得ることができない。

例えば、神権の問題と、その力、組織とその働き、死者のためのバプテスマ、主の晩餐を記念する聖餐の性質と目的、主の健康の律法である知恵の言葉、隣人に福音を伝える教会における一人一人の義務、現世の後にくる光栄の段階、研究と信仰によって霊を高める宗教の必要性、結婚契約が永遠であるとする教え、永遠進歩の教え——これらすべては、教義と聖約の啓示の中に良く説明されている。これら末日の啓示より得た知識で、教会の会員は、他の聖典を研究することができ、文字通り、これまで読者にわからなかった隠された意味を「行間から読みとる」ことができるのである。教義と聖約は、このような二つの目的に役立っている。神のみことばや御旨を、この神権時代の人々に明らかにすること、そしてもう一つは他の聖典に記された漠然とした不完全な教えを理解する鍵となることである。すべての聖典の中で、教義と聖約は、末日聖徒が進んでなれ親しまねばならないものである。

次にとりあげた章のリストは、近代の聖典のメッセージとスピリットに触れようと願うすべての人々にとり、手引きとなるものである。

1. 第一章

この章は、なぜ啓示が与えられたのかを述べ、主の教会の会員にキリストが課せられた責任を示して、この書物に対する「主の序言」としている。

2. 第四章

この章は、予言者ジョセフ・スミス之父に与えられたもので、彼が宣教師として働くように召されている。そして、宣教師が当然もたなければならない諸徳や性質をあげている。この章は、神権時代の教会の職務に召された多くの人々にとって靈感の源となってきた。

3. 第十三章

この短い章には、アロン神権者を力づける出来事が記されている。

4. 第二十章

当時、教会は公式には法人組織であったが、教会の基本的な信条や実践を説明するちらしや小冊子、信仰箇条、その他のものはなかった。この章は、教会の力、権威、教義および権限に関する最初の公式宣言である。それは「教会の憲法」と呼ばれるかも知れない。

5. 第二十五章

この章は、教会の指導的地位に多くの婦人を置くようにはからい、末日聖徒を「歌を愛する者」とするように述

べている。

6. 第四十二章

第二十章を補って教会の様式、儀式、規律などについて多くを述べられている。

7. 第七十六章

ふつう「光栄の三つの段階の示現」として知られており、実際にこの章では七つのそれぞれの示現が述べられており、そのうち六つは一般的な説明であるが、七番目だけがとりたてて述べられている。

8. 第八十七章

これは、ふつう「南北戦争の予言」として知られている。しかしこの名称は、完全に正しいものではない。例えば戦争について予言しているとはいえ、南北戦争は引続いておこり人類に苦悩をもたらす戦争の単なる始まりにすぎないことを示している。

9. 第八十八章

これは最も長い章のひとつであり、そしてまた最も偉大な章のひとつである。それは「予言者の塾」と呼ばれ、教会がそれにならって行なうはずの教育形態を定めている。全体的に、各州と比べてみて、高校や大学に出席する教会会員のパーセンテージがきわめて高いのは、この

章で、教会の宣教師制度や一般会員が指導者となる制度のために学問や研究を重視しているからである。

10. 第八十九章

ふつう「知恵の言葉」として知られているが、これは「主の健康の律法」と呼んだほうがよい。

11. 第九十三章

末日聖徒の人生哲学を理解しようとする人は、この章を研究しなければならない。この哲学は、予言者ジョセフ・スミスによって教えられたように、生命が永遠であると説明する基礎となっている。

12. 第百七章

これは、神権に関する偉大な章である。

13. 第百二十一章

ここには、神権者の力と精神について、美しく述べられている。

14. 第百三十章及び百三十一章

予言者ジョセフ・スミスの説教からの抜萃を含む、この両章には、教会の特色ある教えの多くが見い出される。これらは、古代の福音の新しい回復としていわゆるキリスト教会からはっきり区分される。

— 同 じ 声 —

権 威ある声とことばが、愛の声やことばと同じとき、そのときこそ、従順、その他の行ないが子供に受け入れやすいものとなる。愛する子供に話すとき愛称を用いたり、愛撫をしたりすること、心をよく伝えるけれど、他に多くのことがある。それは、仕事をやりとげたことをほめること、何かをしようとするときの許可、再びそれをしようとするように励ますことである。また遅い進歩を認めてやること、失敗をあまり責めないことであり、よろこびに満ちて抱き締めること、予期しないほほえみをかけることである。それは苦痛と驚きを救うための教訓と警告、何かにおつかるなと言う注意、恐れをしずめること、目を見はらせること、愉快なこと、おやすみ前のお話、ホールにあかりをつけておいてやることである。それは、子供が大人の世界の方法を学ぶ間の忍耐である。

(作者不詳)

日曜学校

すべての人のために

リード H. ブラッドフォード

「**聴**け、汝らわが教会の人々よ。いと高きところに住みて、すべての人を見まもる者の声は告ぐ。……誠に主の声はすべての人々に及ぶものなれば、……」（教義と聖約1：1～2）

時として私たちは一人一人が天の父の子供であることを忘れます。すべての人々は、私の友だちも私の子供たちも、またそこかしこにおられる男の人も女の人も、私の兄弟、姉妹であります。その人々の一人一人が、私たちの聖なる創造主によって計画された進歩、祝福、救い、昇栄、そして喜びを経験する機会を持っていることは実に大切なことです。

けれども、この世の中で、そのような機会は多くの人々に与えられていません。

雪の中の子

身にしむような、寒いある2月の朝が悲劇で始まりました。私は学校に行く途中で、雪のひどい朝にはいつもするように、ミルフォード、コーナーズのスクール・バスの後について運転していました。バスが方向を変えて、止まるはずでないホテルの前に急に止まりました。この予期していなかった停車のために、私も止まらなければならなかったので、あわてました。ところが一人の少年がバスを降り、よろよろとふらつきつづいて歩道のうちにある雪の吹き溜りの上に倒れてしまいました。バスの運転手と私は同時にその少年の所に走り寄りました。少年のほっそりした、うつろな顔は、雪の上でさえ、真白に見えました。

「この子は死んだ」とその運転手はつぶやきました。

少しの間、なにを言ったのかわかりませんでした。スクール・バスの中からこわごわ見おろしている子供たちの顔をちらっと見て、「医者さへ早く！ ホテルから電話しよう……」と私が言いました。

「むだですよ、この子は死んでいる」とじっと動かない少年を見て運転手が云いました。「この子は気分が悪いと少しもいわなかった、肩をたたいて小さな声で『すみませんが、ホテルで降りなければなりません』と、丁寧にあやまるよう

に、それだけしかいわなかった」と運転手はつぶやきました。

その知らせが学校の廊下で発表された時、それまでのくすくす笑いや、ごたごたしている朝の騒音が静まりかえりました。私は女の子たちの集まっているところを通り過ぎました。「だれが、学校へ来る途中で死んだのかしら」とその中の一人がとても小さな声でいっていました。

「名前はわからないけれど、ミルフォード・コーナーズから来ている子よ」という返事でした。

その少年を知らなかった

職員室でも校長室でも同じありさまでした。校長先生は私に「両親に伝えるために行ってください、彼らのところには電話がありませんが、どうしても、学校からだれか行くべきです。その間、私があなたのクラスを見ていましょう」といいました。

「私が？ 校長先生が行かれるのが一番いいではありませんか」と申しました。

校長先生は、「実は、私はその子を知らなかったのですよ」と正直にいいました。「それに昨年、その子は好きな先生としてあなたをあげていましたので」

私は、雪のつもった寒い峡谷の悪路をエバンズ家に向って運転しながら、クリフ・エバンズ少年について考えました。彼の好きな先生、なぜだろう。その子は二年の間私にひとことも話しかけませんでした。私は心の中にはっきりと、午後の国語の時間に、一番後ろの席でふところ手をして座っている姿を思い出すことができました。彼は一人ぼっちで教室にやってきて、また一人ぼっちで帰っていきました。「クリフ・エバンズは決して話したことのない少年だった。彼は笑ったことがない。私は一度も彼の笑顔を見たことがなかった。」私は一人でそうつぶやきました。

大きな牧場の台所は清潔で暖かでした。私は、なんとか、その知らせを伝えました。エバンズ夫人は、がっくりしたようすでやっとのことで椅子に腰かけました。「クリフは、今まで気分が悪いなどと言いいませんでした」

イソップ 物語

病気になった
おうさま

わたしはびょうきでね。おみまいに
くるように、みんなに
いっておくれ。



おうさまがびょうき
だって、いって
「げんきつけて
あげよう。」

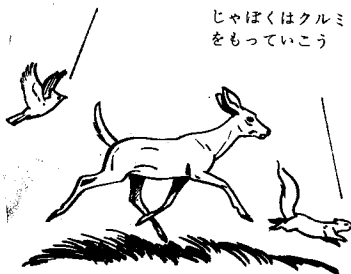


おみまいにサ克蘭ボ
をもっていってあげよう

きょうは、きぶんは
いかがですか。

ありがとう、だいぶよくな
ってね。みんなおみまいに
きてくれたが、ちょっと
よっていかないかい。

じゃぼくはクルミ
をもっていこう



いまはやめときましょう。

わたしはしんばい
しょうでね。

どうして。



ほらあなにはいっていくあしあとはあっても
でていったあとはないようですね。はいる
まえにでられるかどうかたしかめるのが
あたりまえですよ。



ス ペ イ ン の お 話

ボ ジ ョ の ぼ う し

ソルベィグ、ポールソン、ラッセル

ボジョはペドロじいさんの小さなロ
バです。

みかけはよくありませんが、でもと
てもはたらきものです。

ボジョはキャベツやにんじんの入っ
た重いかごもへいきで市がひらかれる
日に村へはこびました。ボジョはほか
の村のロバたちがじぶんよりも新しい
かごを持っていたても、また銀のようなく
ぎのふちどりののはづな（くつわに結
びつけてある綱）でも気にしませんでした。

ボジョのはづなはロープでしたがま
んぞくしていました。ボジョはへいぼ
んな、なんのとりえもない
目立たないロバでしたが、しんせつな御主人が
いるのでしあわせでした。

そうです。ペドロじい
さんがボジョの頭にばか
げてみえる麦わらぼうをかぶせるまでは、しあわ
せだったのです。それは
こんな風にして起りました。その夏は太陽がばか
にてりつけてあつく、ボ
ジョはひたいに太陽の熱



があたるのがいやでした。そのあつさ
といったら、ボジョはショボショボし
た目をつぶりっぱなしにしておきたい
と思うほどでした。ボジョは自分の頭
を地面にひくくたれたままにしておく
か、しげみやかげを見つけたらそこに
頭をつっこんだまま、はなれないでい
たいと思うほどあつかったのです。

太陽はペドロじいさんにもてりつけ
たので自分の頭にハンカチをまきつけ
ておじいさんにはこう言いました。「日
よけになるつばの広い麦わらぼうがほ
しいものだ。でもそんなぜいたくをす
るお金はないしキャベツやにんじんを
売って入るお金は、みんな冬の食物や
ねんりょうに使わなければならない
し、麦わらぼうなんて暑い夏の日にし
か用のないものだしな。そうじゃない
かね ボジョ？」

それからペドロじいさんはガラガラ
とてりつける太陽から顔をそむけ、目
をとじているボジョをちかぢかとみつ
めて言いました。

「ボジョよ、ゆるしておくれ！ 自
分の頭の事ばかり考えて、ずいぶん自
分がってだったね。お前こそぼうしが
いるんだったのに。いつも外に立って
いるのはお前なんだからね。何とかし
てお前にぼうしを買ってあげよう。」

このぼうしの話にボジョはグィッ
と頭を持ちあげて目をぱちりとあけ
ました。ボジョはぼうしなんかほしく
なかったのです。このあついのにぼう
しをかぶってマーケットにいくなんて
考えるだけでボジョはみぶるいがしそ
うでした。ぼうしをかぶったロバなん

て今まで見た事ありません。ものわ
らいにされてしまうとボジョは思いま
した。

ほかのロバたちがヒヒーンと笑ってさ
んざんばかにするにちがいない。あ
あ、ペドロじいさんがそんなばかげた
ことを忘れてくれればいいのに……。

けれどもペドロじいさんは忘れませ
んでした。おじいさんは、キャベツや
にんじんを、もっともっと大きくしよ
うと、前よりもいっしょうけんめい
はたらきました。そしてつぎの市場が
開かれる時に二日かれらは 村へ行き
ましたが、ペドロじいさんはズボン
のベルトの穴を一つつめて、ぼうしを
買うお金を作るためにお弁当を持たな
いで行ったのです。こうしてペドロじ
いさんは、もちろんぼうしを買いまし
た。それは高くつばがかるい広いぼ
うしでした。ペドロじいさんはボジョ
の耳が通るように注意おかくつばに二
つの穴をあけました。もしボジョがペ
ドロじいさんとお話し出来たら、こう
さげんだにちがいないありません。「やめ
て！ そんなものをかぶせないで下さ
い！ お願いします」

ペドロじいさんは後にさがりにっこ
り笑って言いました。「さあ、これで
お前はずっと楽になるねボジョ君。」

ボジョはずっと楽になりました。そ
のぼうしはボジョを太陽の熱と光から
とてもよくかばってくれました。けれ
ども水にうつた自分をみて、「まるで
めぬけなロバみたいだ！ ペドロじ
いさんはあんなに喜んでるし、この
ぼうしを買うためにペドロじいさんが



方に近づいて行き
ました。王子様の
しがみついている
ところより少し前
でせいっぱい腕
を広げて王子様を
片方の腕にだきま
した。少しふるえ
てはいましたがそ
れでもしっかりと
王子様を抱きとめたのです。

「さあ、もうだいじょぶだよ」と
クリスはやさしく言うと、弟のエリッ
クに吹いてやったあの指笛を王子様に
吹いてあげました。するとだれかが王
子様をクリスの腕の中からだきあげて
急いで船長室につれていきました。

クリスはホッとため息をついて修理
屋にもどろうとしました。「キャプテ
ン・フォスターが一人でこまってるだ
ろうな」とクリスは思いました。そし
てクリスと王子様を見守っていた人々
の間を早足で通り過ぎようとしたと
き王様の大きな声がきこえました。
「クリストファー・ウェバー、君はど
うして士官学校をやめたんだね？」
「ぼくはこの港町の帆の修理屋で働い
ているんです」とクリスは王様に頭を
下げ敬意をあらわして言いました。
「君はあの、国中で一番勇かな船乗
りだったウェバー船長の子供だね。」
クリスの胸はドキドキしてきました。
王様はお父さんのことを覚えていてく

れたのです。
「お父さん同
様、まったく
勇かな子
だ。お父さん
に本当によく
似ている」と
王様が言うと
人々はクリス
の勇気をたた
えていっせいに拍手をしま
した。王様は
人々に静かに
聞くようにと
手を上げて合
図をすると続
けてこう言い

ました。「クリストファー・ウェバー
今から君はこのマリアンヌ号の乗組
員になりなさい。そして他の士官学生
と共に勉強しなさい。」「しかし王様、
それでは弟や妹はどうなるのでしょ
う」とクリスは少しためらいながらた
ずねました。「だれか他の者にめんど
うを見させることにしよう。」王様が
こう答えるとクリスはにっこりしまし
た。クリスの顔は喜びで輝いているよ
うでした。これでやっとクリスもマリ
アンヌ号のデッキを歩きながら潮風に
ひたることができるようになるので
す。お父さんのような立派な船乗りと
なってクリスもきっと国のためにつく
すことでしょう。

ばん勇かなな乗船りだった……。」とこの男はとても感心したようすで言いました。腕にかかえていた帆をクリスに手渡しながらつつけて「ところで、どうして海軍士官学校へ行かないんだね?」「お母さんが仕事に行ってる間、弟や妹の世話をしなければならいんです。」とクリスはていねいにそのわけを説明しました。「王様と王子様がもうじき港に来られるはずだ」と言いながらその男は店をでて行きました。クリスは帆の小さなさけ目をじょうずにぬい合わせました。「できたらマリアンヌ号にかえしてきてくれなにかね。そうしたらお昼休みにしよう。」「はいそうします」とクリスは元氣よく返事をする。「ひょっとすると港で王様に会えるかもしれないぞ」と言ってにこにこしながら帆をもって急いで店を出ました。

修ぜんした帆のとりつけを終えるとクリスは船をまたいで王様の到着を待ちわびている人ごみの中に入っていました。クリスは生まれた時からこの港に住んでいたもので、港にはいってく船や出ていく船のことを友達のように思っていました。クリスは停泊中のマリアンヌ号の上品な姿にうっとりとして見入ってしまいました。そしてもっとよく見ようと、2、3ヤード下がりました。その時王様がきれいな馬車から降りてくるのが見えました。クリスの心は喜びでいっぱいでした。すぐあとから5つになる王子様が馬車からボンと飛び降りました。そして王子様はマリアンヌ号に乗り移ると、立ったま

まあたりのようすを見守っていました。王子様は今着ているあのかたそうなまっ白いワイシャツがきっときらいなのかもしれないとクリスは思いました。というのは王子様が時々身体をもそもそ動かすのが見えたからです。クリスはよく弟のエリックに鳴らしてやる指笛を吹きながら、あの王子様も普通の子供と同じなんだなと思いました。

王様が話を始めました。クリスは王様をじっと見守っていました。ところが王様がすこし話し始めたかと思うと、どっとざわめきが起きました。海につき出ているブームに王子様が必死でしがみついているではありませんか。人々は息をのんで恐ろしさのあまりコチコチになっていて助けることさえできませんでした。偶然クリスがそのブームにいちばん近いところにいたので王子様が海に落ちないうちになんとかしなければならぬと考えて静かに手すりに身体をよりかけました。進んで行くにつれて手すりがクリスのお腹を掘り抜いていくように感じました。クリスは深呼吸をしてキッと身を引きしめました。

王子様はあまりのこわさに身動きひとつできません。クリスはどうしてもそこにのぼらなければ王子様を助けることができないのです。しかしそれほど強くないぼうがこれ以上の重さに耐えられるのでしょうか。クリスが王子様のところまで行かないうちに真二つにおれてしまわないでしょうか。

クリスは静かにゆっくりと王子様の

どんなにくろうをしたかを思うとぼうしを取ってしまおうとするなんて悪いけど、でもやらなくちゃ、ぼくはどうしてもこれをかぶって市場へ行くのはいやなんだ!」

それからボジョはやなぎの木に頭をすりつけました。なんどもなんどもやなぎの枝にぼうしのつばをすりつけました。つばは上や下にうごいてとうとうはじがやぶれてつばはびりっとさけてしまいました。「つばをすりへらしてやろう」とボジョは言いました。

でもペドロじいさんがやぶれたふちを見て、はりがねの小さなわをまきつけたので、ぼうしはもうこれ以上すり切れませんでした。夜になってぼうしがボジョの馬ごやのくぎにかけられるとボジョはするどい後足のひづめがぼうしにとどこまでからだをねじってくぎからはずしてしまいました。そして頭の入る所をふみつけて穴をあけてしまいました。でもその時ぼうしはボジ



ョの足にからみついていたのでそれをはずすために強くけとばすと、ぼうしは足がとどかない所にとんで行ってしまいました。

「ようし、ようし、お前のぼうしがおちたのでお前はひろおうとしたんだね。心配するんじゃないよ。この穴に花をさしてあげよう。そうすりゃ穴なんかだれも気にしないさ。」と次の日の朝ペドロじいさんが言いました。

その通りにおじいさんはやっちゃったんです。そしてボジョは前の方に大きな赤い花をつけた麦わらぼうをかぶる事になってしまいました。ペドロじいさんがかごをつんでいる間にボジョはぼうしをくわえようとしてつばを下にさげようとしてしました。そして頭を上下にはげしく動かししたり、耳をふり動かししたり、くちびるを早く動かししたりしてみました。ボジョのとどく所にぼうしは来てくれません。どんなにはなをならしてみても口を大きくあけてみてもぼうしは頭といっしょに動かしませんでした。

「おや、はなでもかゆいのかい」といってペドロじいさんはボジョのはなをやさしくかいてくれました。

「だめだ! どうしたってだめだ! ぼくはこのぼうしからにげられやしないんだ。他のロバたちの笑いものになってもがまんしなくちゃ」とボジョはためいきをつき、しょんぼりと頭をたれて市場へ出かけました。

ほかのロバたちはいなくなりました。ロバの持主たちは自分のロバたちがただ陽気になっているのだと思ったので

すが、実はロバたちはボジョをもの笑いにしていたのです。

「ごらんよ！ あんなの見た事あるかい？ いったいこんな市場であんなに立派な方に何が出来るっていうんだね？ ホラ、ホラ！ ぼうしをかぶったロバだとさ！ どこかでサーカスでもあるのかな？ ボジョはとんだ御主人を持ったものだ！」

ボジョは出来るだけみえない所にいるように思っていましたけれど、他のロバたちがペドロじいさんの悪口を言っているのを聞くと頭をあげて他のロバたちの前をどうどうと歩きました。ボジョは大きな声でこう言いました。「ばかものたちが！ 君たちは一人だって自分の事はかまわずに、ロバに楽をさせようと考えているご主人を持っていやしないんだ。ぼくをかわいがって、ペドロじいさんがこのぼうしをかぶせてくれた事をとてもぼくはほこりに思っているんだ！」

そしてボジョは足をふみならし、ほこらしげにそりかえりました。その他

のロバたちはしずかになってふしぎそうに顔を見合わせました時、村長さんと、娘さんがロバたちの所にやってきました。その小さな女の子はボジョを一目見るとかけよってさけびました。「お父さん、このロバよ。王様のぎょうれつに村のお花をとどけるのは、このぼうしをかぶったロバがいいと思うわ。そうしましょうよ。」

村長さんはニコニコして「そうだね。持主がぼうしをかぶせるほどかわいがっているのだから、きっとすばらしいロバなのだろう。ぼうしをかぶったロバを見るのは本当に久しぶりの事だ。ずっと昔の事だが、良いかいぬしは動物たちを太陽からこんなふうにしてやったものだった。このロバのようね。」と言いました。

それからボジョとペドロじいさんは村の花かごを持って王様のぎょうれつに行きました。ボジョはどうどうとあるいたのでぼうしにさした花がまるでおじぎをするようにゆれていました。

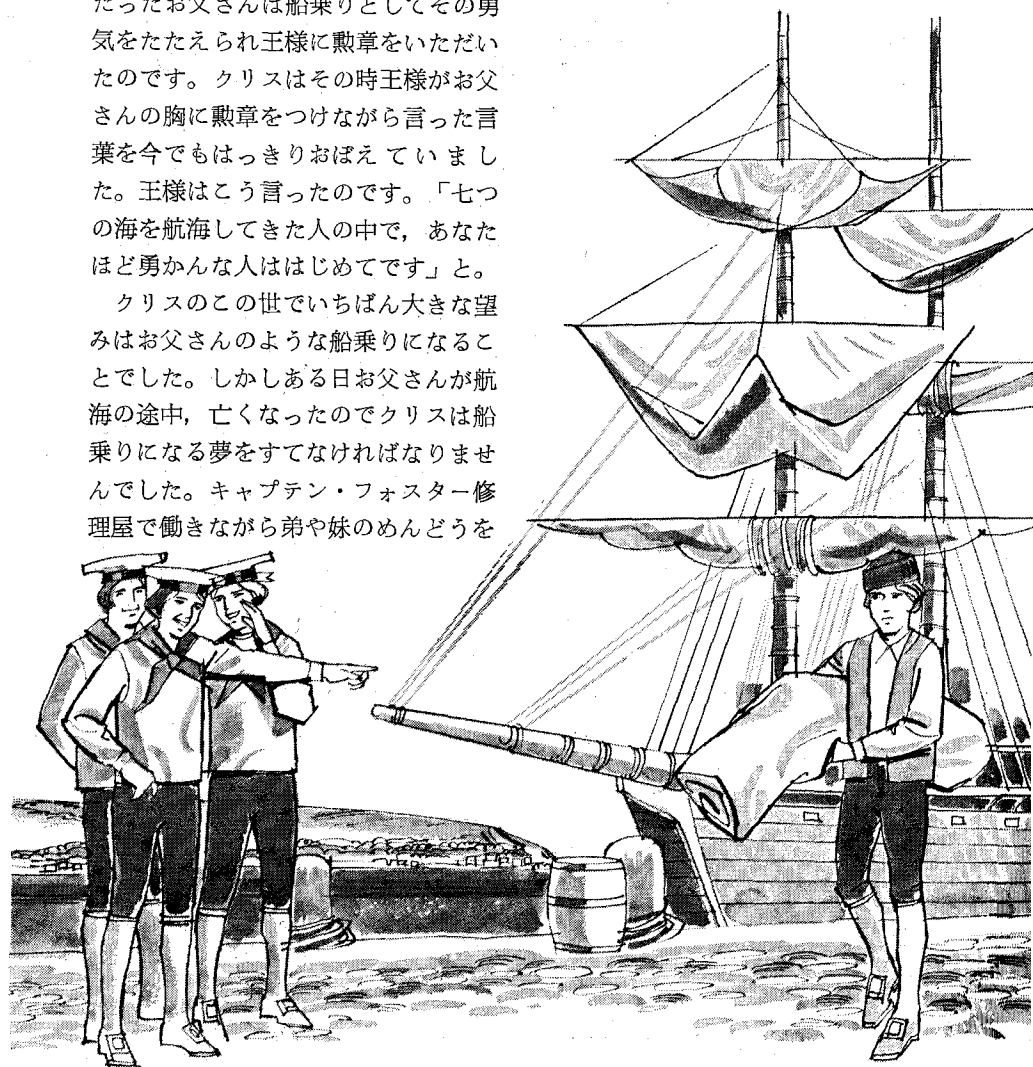
手で押し上げながらこうつけ加えました。「おまえだって、きっとお父さんのように勇かんな人になれるんだ。」

クリスは仕事台に向うと破れた帆をていねいにつくろいはじめました。ひと針ひと針いっしょうけんめいにぬいながらクリスはお父さんのことを考えました。クリスがまだ11才の時、船長だったお父さんは船乗りとしてその勇気をたたえられ王様に勲章をいただいたのです。クリスはその時王様がお父さんの胸に勲章をつけながら言った言葉を今でもはっきりおぼえていました。王様はこう言ったのです。「七つの海を航海してきた人の中で、あなたほど勇かんな人ははじめてです」と。

クリスのこの世でいちばん大きな望みはお父さんのような船乗りになることでした。しかしある日お父さんが航海の途中、亡くなったのでクリスは船乗りになる夢をすてなければなりません。キャプテン・フォスター修理屋で働きながら弟や妹のめんどうを

見るのがクリスの仕事でした。

たくましい腕に、さけた帆をかかえた男が大またで店に入ってきました。そしてクリスを見かけるとこう言いました。「君はウェバーさんの息子さんじゃないかね？」「はい、そうです」とクリスはほこらしげに返事をしました。「ウェバーさんは、国中でいち



波止場に

マデライン・エカード

なおしてまたとりつけるのです。

修理屋に近づくときクリスは帆をぐっと引き寄せ、雨風にうたれてぼろにになっている戸をあけて中に入りました。

「あの士官学校の生徒達がまたおまえをからかっているという話じゃが……。まあ気にかけんほうがいい……」とキャプテン・フォスターが言いました。そしてひたいにたれている白髪を

クリストファー（クリス）・ウェバー少年は、ノールウエーの小さな港町の通りを重そうな帆を引きずりながらとぼとぼと歩いていました。これからその帆をキャプテン・フォスターの修理屋へ持っていくのです。クリスは「マリアンヌ号」という王立の海軍士官学校で訓練用に使われている船から帆をはずしてきて破れているところを

クリフの養父は「あいつは、おれがここに来て以来、なに一つ話をしなかった」と荒々しく言いました。

エバンズ夫人はストーブの後になべをおいて、エプロンをはずし始めました。「まあ待ちなさい、町へ行く前に朝食を食べなければならない、とにかく今となっては何も出来ないのだし、もしクリフがそのように無口でなかったら、気分の悪いことを話したはずだ。」と彼女の夫はがみがみいいました。

おまえは、取るに足らない人間だ

放課後、私は職員室に座って、目の前に開かれている記録を悲しい気持ちで眺めていました。私はその記録をつけ、学校新聞にその死亡記事を書かなければなりませんでした。しかしその記録にはほとんど何も記入されていないので、記事の書きようがありませんでした。クリフ・エバンズは養父と5人の腹違いの兄弟・姉妹たちに正式に縁組されていませんでした。提出するものといえば、不十分なその記録と悪い成績表しかありませんでした。

クリフ・エバンズは、朝学校のドアから静かに入ってきて、夕方には静かにそのドアから出ていく、そんな子でした。どのクラブにも属さず、ゲームにも加わらず、どんな責任も決して受けませんでした。私の知る限りでは、彼は楽しいこと元気な子がやるようなことは少しもしませんでした。まったく他の子とちがっていました。

何が原因で、少年を無気力にしてしまったのでしょうか。小学校の記録を見てみました。一学年と二学年の先生の評価は「やさしい、はにかみ屋」「内気だが熱心である」と記されていました。その後三学年目の記録から評価はめだって変わりました。ある先生がはっきりと、強い調子で「クリフは話さない。非協力的である。のろまな子である」と書いていました。他の先生も自分であまり考えないで「愚鈍」「気転がきかない」「知能指数が低い」子であると記していました。それが事実になってしまったのです。少年の中学三年の時の知能指数は83と記されていましたが、小学校三年における知能指数は106でした。そして中学一年の時に100以下になったのです。恥ずかしがり屋で、内気でやさしい子供でさえも快活な心はもっているものです。その心は少しの間でうちくだかれるようなものではありません。

私は足音をたててタイプライターのところに行き、クリフ・エバンズ少年にとって教育がどんな影響を与えたかについて残酷な報告を書きました。そして校長先生の机の上にその写しを一枚音をたてて置き、もう一枚は使い古したファイルにとじました。私はドアをぱたんと閉めました。一向に良い気持ちになりませんでした。一人の少年のおもかげは私の脳裏から去りませんでした。その少年はやつれ、青白い顔をして、色あせたズボンをはき、やせこけていました。そして大きな目は何かを求め訴えるように見えた瞬間、すぐに閉じられるのでした。●

その少年がゲームに誘われず仲間はずれになってうわさをされ、何をやるにも一番後であったことが容易に想像されました。私は「クリフ・エバンズ、お前はのろまだ、お前はのろまだ。お前は役にたたない」と言う顔や声を何回も見聞きしたことを思い出しました。

決意と挑戦

子供は信じ易いものです。クリフは疑いもなく自分がのろまで、役に立たないものであると信じた。私はこのことをはっきり知りました。クリフ・エバンズは自分に残されたものが何もなくなってしまった時に雪の吹き溜りの上に倒れて死んだのです。医者はその死の原因として「心臓障害」と記したかもしれませんが、死の原因についての私の考えは変わりませんでした。

私たちは、葬式に出席するほど彼と親しかった子供を学校中で10人と探すことが出来ませんでした。ですからクラス委員たちや高校二年生のクラスから委員会がグループとして、いんぎんに悲しそうにして教会へ行きました。私は彼らと一緒にそのお葬式に出席して座っている時に胸の中に冷たい一かたまりの鉛があるかのように感じました。そして心の中に大きな決意が出てきました。

私はクリフ・エバンズやその時の決意を決して忘れませんでした。クリフを思い出すことは来る年も来る年も、クラスが変わるとに私のはげみになりました。私は毎年知らない顔ぶれを見て列の前から後まで注意深く見廻します。そして他の世界に行っているような顔をして座っている子や、ヴェールで覆われたような目をした子を探します。「皆さん、今年私は何をしなくともただこのことをします。みなさんのだれ一人として自分取るに足らないものであると感じないようにしたいのです。私はどんな時にも最後まで頑張って、社会や学校でそのことのために努力します。そしてこのクラスからは自分が無に等しいものだ考える人が一人もでないようにします」と言います。

必らずではありませんが、ほとんどの場合、私はそれをしてきました。

一人一人に権利を与えなさい

当然の機会を一人一人に与えるという原則は私たちの生活にどう適用できることでしょうか。二、三の方法を考えてみましょう。

比較 もし私が親であつたら、子供たちが皆、多くの面で同じであっても、一人一人が特色のある人格をもっているということを憶えているでしょうか。最近一人の学生が両親は化学の分野で国家的権威者である兄さんの輝かしい成功についてばかり言うところばしていました。その弟の方は兄と同じ才能に恵まれていませんでした。しかし彼は他の才能をもっています。もし両親がそれらの才能を見出したり達成するよ

うに助けて、有名であるなしにかかわらず、彼を公平に正しく受け入れたなら、どんな助けとなることでしょう。人は自分の能力の最善をつくすことにこそ、価値があるのではないのでしょうか。

神の子供として受け入れる

世の中で人々は時々地位とか、身分によって受け入れられたり、拒否されたりします。

ある時、私は友人と彼の車に乗って集会にいきました。集会后、彼は教会のある有名な人に封筒を渡さなければならぬと言いました。「彼にその封筒を渡すのにちょっと時間がかかりますが、待ってくれますか」といいました。

「もちろん、いいですよ」と私は答えました。

それは冬の寒い晩で、車の鍵をもっていったので、エンジンをかけることが出来なくて、ヒーターが入りませんでした。

5分たち、30分たち、1時間たち……ついに1時間半たちました。

友人が戻ってきて「さあ、行きましょう」といいました。

私は昔から彼を知っていましたし、私たちは良い友だちでしたから、遠慮なく何でも話すことができました。

「誤解しないでほしいですが、一つ尋ねたいことがあるんですよ、それは私にとって大切なことなんです」といいました。

「もちろん、結構ですよ、質問とは何んですか」と彼がいきました。

「もし、あなたがその封筒を渡している間、教会の重要な

責任をもっている人を車の中に待たせていたとしたら、あなたは1時間半の間ここに座らせてその人を待たせるでしようか」と尋ねました。

あらゆる人は天のお父様にとって大切であります。

救い主は次のように語られています。

「二羽のすずめは一アサリオンで売られているではないか。しかもあなたがたの父の許しがなければ、その一羽も地に落ちることはない。……それだから、恐れることはない、あなたがたは多くのすずめよりも、まさったものである。」
(マタイ 10: 29, 31)

さらに

「あなたがたはどう思うか。ある人に百匹の羊があり、その中の一匹が迷い出たとすれば、99匹を山に残しておいて、その迷い出ている羊を捜しに出かけないであろうか。そのように、これらの小さい者のひとりが滅びることは、天にいますあなたがたの父のみこころではない。」(マタイ 18: 12, 14)

主の関心と、祝福と、愛は、すべての人のためにあるものなのです。

* 「雪の中の子」 ジーン・E・マイザー

National Education Association Journal Vol. 53,
November, 1964

この物語は、1964年度の1,000ドル教員懸賞論文コンテストで一位に選ばれたもので、実際にあった話ですが、名前や場所は許可を得て変えております。

今月の

前奏曲

Prelude

DELMAR H. DICKSON



Postlude



3月の聖句

大人日曜学校

永遠の命とは、唯一の、まことの神でいますあなたと、また、あなたがつかわれたイエス・キリストとを知ることあります。

(ヨハネ 17: 3)

子供日曜学校

イエスは言われた「もしあなたが私を愛するならば、わたしのいましめを守るべきである。」

(ヨハネ 14: 15)



小さな事が大切です

ルイス W. マドセン

ミケランジェロは、大きな立像を完成するのにどうしてそれほど時間を費すのか不思議がる友人に「小事は完成につながるが、完成すなわち小事ではない」と答えました。

顔の表情を和らげ、手足の筋肉をつけ、唇に表情をつける事から、美と尊厳さを永遠に失わない傑作が生まれるのです。

私たちの人生における小事、大事、あるいは、ささいな言動がどのように人生に影響し、他人が私たちに対して持っている印象を変えるかまったくわかりません。天父は、私たちが完成をめざす時に、大事同様に小事をよく果し、意義を見出し完成へと向うようにして下さるのです。

どんな小さな事でも私たちの人格を造りあげているものは大切なのです。不完全なところがあれば美しい作品の価値はずっとさがります。交響楽の不協和音、絵画の筆づかいのまづさ、コーラスの中の耳ざわりな声、周囲にそぐわないければいい色、それらすべては小さな事ですが、そのために美は汚されているのです。同様に、人格に欠点があると、その人の将来はずっとせめられてきます。見る人の目には小さな事も大きく見えます。たとえめったにやらないことでもちょっとした無作法によって、他人の評価は下がるものです。パーティーでのホステスがたった一度人に不快感を与えたり、変わったことをしようとか予期しない客のためにも用意しておこうとしてこりすぎるとパーティーの魅力も半減してしまいます。非常時においても平穩無事な時と同様の変らぬ優雅な態度は女性の特性です。

美しい容姿もちょっとした事で台無しになるものです。自分の与える印象を考えずに、時間がかかるからと言って身繕いを怠りがちになり、それがみじめな気持の原因となっている事に無とん着な人がよくいます。どんな場合にも、出来る範囲内で身なりをきちんとしておくことは大切なことなのに、それはとかくむだだと考えられがちです。

しかる時に大声でどなったり、おこったような顔、身ぶりをする、子供は後悔の気持をなくしてしまいます。ばかな事をしてしまうと、その印象が後々まで残るものです。

近ごろの様ないわゆる「気ままな」生活には、親切心やこまかい事への心づかい、美しい人生を送り好ましい行動をとる様に心がけることが本当に大切になって来ます。これらは小さな事かもしれませんが、私たちが完成へ近づく助けとなります。感受性は大いにほめ、求めるべきものです。それは人がどの様に考え、行動し、感じるかを知る手だてです。大切なのは自身をその知識に合わせることです。この性質を身につけている人は人と協調し、人に自信をつけ、そして個性を尊重することが出来ます。感受性は大切な「小さな事」の一つなのです。

主は「小さな事」で私たちを裁かれるのです。主は信仰深いしもべに言われました。「……あなたはわずかなものに忠実であったから、多くのものを管理させよう。主人と一緒に喜んでくれ」（マタイ25:21）私たちは小さな事を大切にすることによって私たち自身を高め、人をも喜ばせるのです。



祈る人の肖像

デニス ドレイク

祈りは対話である。ひとりごとではない。それは人とその永遠の導き手との間に霊的な通路を開く。マッケイ大管長は、祈りは「魂の呼びかけであり……語ることは単なる言葉ではなく心のひびきである」といっている。

祈りは我々の進歩を予言する。もしそれが我々が為そうとすることの真の青写真であるならば、我々はそこに最善の道を見るであろう。

祈りは深い思想を形づくり、そしてさらに深い思想をつくる。それは聡明さへの鍵の一部である。予言者ジョセフはモロナイに教えられた、「汝祈りを忘るな。そは汝の心強くならんためなり」

祈りは信仰を必要とし、また信仰を築きあげるものである。そして我々個々人に感謝と謙遜と希望の感情を経験させる。

祈りは生活の負担を他と分かちあうことによって現世の重荷からの救いを与える。それは我々を強くするための処方箋であり、不必要な心配や不安の解毒剤であり、さらに大きく霊的努力をするためのなかだちとなるものである。

祈りは人が自身を正直に分析するようにしむける。祈りは自分を現実的に正しく評価する能力を授ける。それは隣人や事務所の仲間や学校での同級生と比較してではなく、自分自身、自分特有の「タレント」とそれらを使うことによってのみはかりうる個人として、人生の競走をいかに走っているかによって評価されるのである。

祈りは神の実在を教え、真に認めさせる。それは信仰の証であり、日々の自叙伝であり、自画像である。

祈りは疑いを解きほぐし、恐れを取り除き永遠の真理を教え、導き、振り立たせることができる。

神はほんとうに死にたもうたのか神にたずねよ。



編集者註：リン ベーカーは16歳の少女のペンネームです。痛ましい彼女の体験から、このような感動的な文章を大人たちの前に書くことになったのです。

話を聴く 時間をつ くりなさい

リン ベーカー

耳を傾けようとしなさい——明日ではなく、今から一時間後でもなく、明日の朝でもなく、いまからです。夜中に訪れる人は、何かよりよいことをしたくて来るものではありません。助けてもらいたい時に、だれもそれを後廻しにされたいとは思いません。もしそういう人を後廻しにすれば、その時から始まるお互いの交流の機会は減ってしまいます。重要な人の序列の最後に自分が位するのだとはだれも思いたくありません。洗濯屋とか会合に行くこととか、あるいは眠りにつくことなどよりは自分のことをもつと大切にとりあげてほしいとだれでも思っています。「あとで」とか「ヒマがあったら」というような言葉はすべての親と監督の用語集から取り除かなければなりません。

「重要なことですか？」とか「長くかかりますか？」というようなことは決してたずねてはいけません。今まで私の監督が、話をするとき始めにそういう質問をしないで聞いてくれたとは思いません。もちろんその問題は重要にきまっています。少なくともその人にとっては重要です。そうでなければ尋ねたりするわけがないでしょう。何か心配だからなのでしょう。たとえその人が正しくても正

しくなくても、悩みを持つ人にとっては、そんなことは問題ではありません。彼はなお心配せずにはいられないのですから。若い人にとって重要なことなら、あなたにとっても重要なものとして下さい。たとえそれが10分かかろうとも3時間かかろうとも。途中で止めてはいけません。後にも先にも行けなくなります。

話を聴くときには真剣に聴いて下さい。夕食をとらなければならぬとか、あるいは何か他の用事があるとかいうようなことを考えながら聞いてはいけません。あなたがほんとうに関心をもっているのか、あるいはただ「面倒なことをしている」だけなのか——つまり機械を扱っているだけなのかを子供は識別することができるのです。

麻薬から離れることは世界でもっとも困難なことのひとつであることを、どうぞ理解するように努めてください。子供たちに麻薬について語る時にはそれを彼らに卒直に言って下さい。あなたはマリファナにふけるようになるだろうなどと言わないでください。

マリファナにふけるはずがないとあなたが知っている彼らが、その言葉を聞けば心を閉ざすだけです。

しかし、私はそれが麻薬中毒と同じだと思います。それは人をヘロイン常用者にはしないでしょうが、不法な手段を教え、悪い仲間と交わせ、証をなくさせ、以前にはそんなことをするだろうとは決して考えられなかったようなことをするようにまで人を堕落させるでしょう。それは友人を失うもととなり、さらに何かをやろうとする意欲をも失わせることになります。なぜならば、自分は愛されるに値しないと思うので、たとえ愛されていても、その愛を素直に受け入れたり信じたりすることができないからです。そしてまるで自分一人だけのように思うのです。

大人は自分の若い時の経験から子供にもそれをあじあわせまいとしてはなりません。そのことに直面する前に敢然と立ち向ってみなければなりません。するとそれは子供たちのためにもなります。

最初から道徳的な問題としておしつけず、すべて論理的に悪い点だけを指摘して下さい。子供たちに、彼らを愛していることをおしえ、たとえどうあろうともその愛がいつまでも変らないということをおしえて下さい。さらに彼らが幸福になることを望んでいること、幸福になれることを知っているということをおしえて下さい。彼らに過去の失敗を思い出させてはなりません。そんなことは充分承知しているからです。

子供たちに希望があることをわからせて下さい。彼らはすでにその道をさぐっています。そしてもし大人が望みのないような態度をとったら、彼らはもっとよいことをしようと振り立つことができないでしょう。

しばしば証を表わして下さい。神を實在の御方と考えているその証を実際に示して下さい。

子供たちのことを心にかけていることを示して下さい。だれも彼らを心にかけていることを示さなければ、神がいかに彼らを心にかけられていたかを想像させるのは困難です。神は非常に親切で愛情ある方にちがいないと私が信じることできた一つの理由は、多くの教会員が私に示す大きな愛を見ることができたということです。そして私は完全である神から与えられる愛がいかにすばらしいものかを想像したのです。もちろんそこにはもっと多くの理由がありますが、それは大きなものでした。

祈りに対してははじめから奇跡的な答を期待せず忍耐よく待つて下さい。そうすれば答えは得られるでしょう。しかしなお、当面の問題がある場合には、「今助けてください」と言うことができること、そして助けが与えられるということを知って下さい。

私がヒッピーやヒッピーになりそうな人たちと、正しいことをすることによって得られる平安と幸福を共に経験できさえしたら、祈

りが答えられて、たとえそれがイエスであろうとノーであろうと、神は私たちのことを十分心にかけておられることを知ることができたでしょうに。

麻薬は知恵の言葉に反するものです。このことははっきりと言われておりません。私の友だちは、天父が教義と聖約の中で、マリファナやヘロインなどといったものがよいものだとは言っていないのだから、それはやはりよくないと断言するのです。

酒はビールよりましだという人々はまちがっています。しかしながら私たちはビールが悪くないとも思いません。でもそれが飲まない理由でしょか。

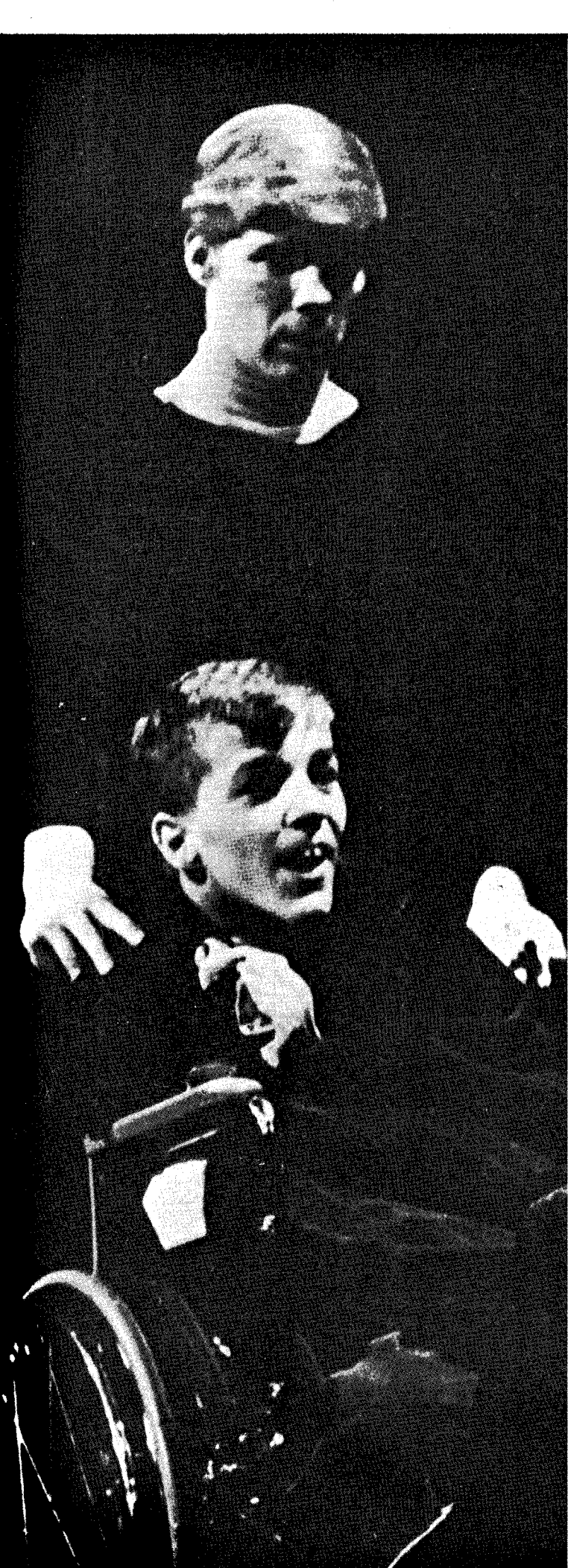
幸福とは何が正しいかを知ってそれを行なうことです。それをしていなければならないからではなくて、それをしたいからすることです。自己に従って生きることはもっともむずかしいことです。他人のことを気にかけないことは容易なことですが、しかしそういう態度はその人を幸福にするものではありません。おそかれ早かれ自分が最善を尽したかどうかは、はっきりわかることですから、その時になって悲しく思うことでしょう。

愛のある家族と、強い証と、よい友だちをもち、そして福音の原則に従わないためにもたらされる悲慘を経験することのなかった子供たちは感謝すべきです。あなたは非常に恵まれています。しかしあなた自身の強さにあまりたよりすぎて、助けを必要としている友人への援助をいとうようになってはいけません。彼らもまたそれぞれに才能と強さや弱さをもった私たちの天父の子供たちなのです。彼らの強さを見つけ出し、弱さを克服するように助けてあげて下さい。そうすればあなたの喜びは大きなものとなるでしょう。（「汝ら改宗したらば、汝らの兄弟を強めよ。」）

若い人々はある朝目をさまして突然「ヒッピーになろう」などと思ったりしません。最初はいっしょけんめい助けて下さいとお願いしているのです。私が髪を伸ばしはじめ、鈴をつけ、サンダルをはき、ミニスカートをはいて教会に行きはじめたときには、私はただだれかが私を抱いてくれて、私が大切な人間であって、注目を引くためにヒッピーなどになる必要はないのだよと言ってくれることだけを望んでいました。

冗談だと思わないで下さい。笑われるのはだれだっていやです。彼らはまちがっているとか、友だちがまちがっているとか言っではいけません。むしろ彼らを愛しているから彼らにとってもっとよい道を知っていると言して下さい。反抗心は傷つけられることから生じるのです。彼らはそんなことを言われたってびくともするものかと言おうとします。「拒まれるまえに、こっちでおさらばごめん」だと思います。

ヒッピー族も私たちと同じ願いや望みや感情をもった人々です。彼らを愛して下さい。彼らのことを心にかけして下さい。語りかけることによって、そして必要としているときにそこにいてやることによって、彼らを心にかけていることを示して下さい。あまり忙しすぎてはいけません。彼らの過去のあやまちを思い出させてはなりません。彼らの将来に確信をもっていることを示して下さい。彼らを個々の人格として認め、彼らとの交際を求めて下さい。彼らがいつも助けを求めてくるようにさせてはなりません。彼らが神の息子、娘であることを、神は彼らが成功し幸福になることを望んでおられるということをおしえて下さい。



「みにくいあひるの子」の場面より(左),
BYUの学生(立っている)が訓練所の生徒
(車椅子にのっている)を助けている。

夢 に

終 ら さ ず

ドナ グレゴリー

若い人々はみな人生の目的を求めています。彼らはほとんど、役に立つこと、奉仕すること、必要とされることを望んでいます。アメリカ合衆国ユタ州に住むある学生たちは、最近さがし求めていたものを見つけました。彼らの努力によって、精神障害者に抱く人々の恐れと疑惑がほぐれはじめました。

2年前、いづれも人生の目標をさがしていた2人の若い人が、ユタ州のアメリカンフォークにある精神障害児のためのユタ州立訓練所を訪問するようすすめられました。ラリー・パークスとダスティン・カーシーがそこで見つけたものは、その子供たちが正常な子供と同じように、愛されたいという基本的な欲求をもっていたことでした。ただ違っていたのは彼らがキリストのようなすばらしい愛を示す方法を一人一人みな知っていたことです。彼らは敵を知りませんでした。友だちは非常に少ししかいませんでした。

ラリーやダスティンと少年たちはすぐに仲良くなりました。彼らは二人共その学校でMIAの役員に任命されて、日曜の午後をそこで過ごしました。

これらの少年たちが学ぶことをどんなに強く望んでいる



特異児童週間の演奏会で独唱者が歌っているところ。

左からダスティン・カーシーとラリー・パークス、キャロル・アン・シャスター



か、またどんなに大きな希望をいだいているかが二人にはすぐにわかりました。ダスティーとラリーは教師の資格はもっていませんでしたが、自分たちの知識を彼らに分け与えました。美しい歌声をもつ者、すぐれたリズム感覚をもつ者、じょうずに読む者などがいて、しかも彼らはみなすばらしいユーモアのセンスをもっていることを知って二人は驚きました。彼らには才能がある。彼らはハンディキャップを負っているにもかかわらず、立派にやっているのです。ヒュー・B・ブラウン副管長は最近、その訓練所の会堂の献堂式において、次のように強調しました。「私は男の人でも女の人でも、ある面において私よりすぐれたものをもたない人に会ったことはありません」

車椅子にしばりつけられたある元気な少年はいつか彼らが劇をやることができないだろうかとたずねました。この質問はダスティーにとってかなり大きな問題となりました。というのは、劇に参加したいと思っているこれらの少年たちはほとんどが車椅子を使っており、しかも中にはうまく話せない者もいたからです。しかしながら彼らはみな理解することができて、彼らの世界とはちがった普通の世界に生きている人たちに彼らのものを与え、そして受け入れられることを望んでいました。ダスティーとラリーは他の人々にもこれらの子供たちを紹介したいという夢を抱きました。彼の才能、愛、感謝の気持ちなどを他の人々に見せるのは、スプーンを使って山を動かすのと同じくらいむずかしいことです。

しばらくたった、ある午後、タマラ・フォウラーというブリガム・ヤング大学の演劇部に所属する女性の部員は、実験劇場でその訓練所の子供たちを出演させて「みにくいあひるの子」を上演してはどうかと提案しました。

ダスティーとタマラは、BYUの学生を使ってあらかじめテープにセリフを吹き込んでおき、子供たちはそのセリフに合わせて口を動かすだけにするというアイデアをおもいつき

ました。さらに、車椅子に乗っている子供のために、ダスティー、タマラ、ラリーその他の仲間たちが目立たないように黒い長い衣を着て（子供たちが明るい色の衣裳をつけて、よく注目されるようにして）、舞台の場面に応じてその劇のほんとうの「スター」をのせた車椅子を動かすことにしました。

劇が上演された日満員の観客は感動を受けました。

「みにくいあひるの子」の成功に伴って、ブリガム・ヤング大学で開かれる特異児童週間についてのアイデアが浮かんできました。

教会に改宗した才能あるユダヤ人、キャロル・アン・シャスターも、彼女の人生の意義を見つけようと努力していました。彼女はニューヨーク市で職業看護婦としての経歴をもっていました。彼女はその仕事で自分にあわないことを知って演説、演劇科専攻生としてBYUにやってきたのです。

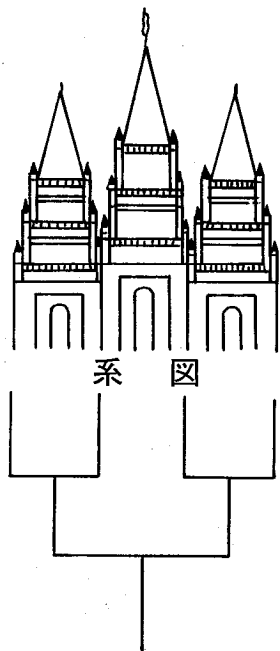
しかし、その道をも断念しようかと迷い始めた時に、彼女はダスティやラリーやハンディキャップのために伸びる道をはばまれていた子供たちとあいました。

彼女はもてる才能をすべての方面に集中して、特異児童週間のための演奏会を指導しました。その演奏会はユタ州全域の約175人の精神障害児童からなり、子供の合唱団、独唱歌手、楽隊などで構成されていました。

その演奏が終わると、観客席にいた人々は舞台裏におしよせてきて、その元気な少年たちにお祝いのことばをのべました。それはあわれみから出たのではなく、精神障害児の新しい明るい面を見せてもらったという心からの感謝の気持ちから出たことばでした。

いっしょうけんめいに努力したわずかな人々によって初めの夢が今は現実になったのです。

新しい記録提出の方法



生ける者と死せる者の救いに関する予言者ジョセフ・スミスの予言的な言葉がこの雑誌にのせられた多くのレッスンの中で、くり返し強調されてきた。実に予言者の時代から、特にその晩年の10年間に、この重要な業がとくに強調され続けてきた。この業はたえず進展しているが現在聖徒を主の業にさらに献身させ、霊性を高めるよう目覚めさせる必要がある。人がその血縁の死者の救いのために働くのは大いなる特権ではないだろうか。この業は、我々の家族だけでなく、隣人に対する愛と信仰を再燃させてくれる。

系図協会は、神殿の儀式を活発化し、先祖に代って神聖な責任をすべて果たす聖徒を助けるというはっきりした目的のもとに、75年前に組織された。協会の仕事は日に日に進み、現在では神殿記録索引局に、完了した神殿儀式の記録カードが3,600,000以上もあり、シーリングを行なったファミリーグループの記録が600,000そして数万の名前が、将来役立つよう協会により保存されている。

この仕事が進み、神殿も増えて来ているので、聖徒は、探求について一層の責任を負うようになる。キリストの群にっどおうとすべての国から集まって来る教会の会員は、新しくみいだした信仰を通じて先祖の救いを手伝おうとする新たな希望に目覚めている。

教会の会員の増加に伴い、高まってくる必要に即して、新しい方法が考え出されねばならなくなっている。系図協会は、大管長会の指示の下で、この業を簡易化するために何年もの間、案を練り、それを発展させてきた。教会の会員に必要な情報をもっと迅速に役立たせる効果的な方法を見つけることが大いに必要になってきた。

教会指導者の指導による長年の研究と考察の後に、一つのシステムが開発された。これは、血縁の死者の代りに神殿の儀式をとり行なうための名前の提出を、もっと容易にできるようにするものである。

「記録提出の手引」と題された指導書が、ステーキ部や伝道部に向けて出されようとしている。これには、その方法が記され、全教会員が、1969年10月1日に始められる新しい方法をどう用いるべきかについて詳細に説明がなされている。

1968年10月3日総大会前のわずかな時間に行なわれた会で系図協会の副会長であるセオドア M. バートン長老は十二使徒の地区代表に向かい、この新しいプログラムについて注意深く説明した。この計画は、神殿の儀式のために「個人の」名前を提出することを可能にする計画である。バートン長老が説明するところでは、この新しい計画によれば、家族の全員が集められるまで待たねばならなかったこれまでのやり方に代り、両親に対して各人が個々にシーリングできることを含めて、神殿の儀式が個人的に行なうことができるということである。彼は我々がこの新しい方法をどのように用いるかについてこまごまと述べて長所を説明した。

ここにバートン長老の話を簡単に要約して掲げる。

彼は、75年前に系図協会が組織されて以来の歴史をふりかえってみた。そして、絵やチャートを用いて、その偉大な発展ぶりを示した。系図探求が非常に進展したので、より早くより容易な記録処理の方法を考えなくてはならなかったことを指摘した。また、このことは、もし教会が、死者の救いについて主によって命じられた神聖な義務を遂行しようとするならばぜひとも必要であると強調した。

教会が組織されて以来、主はいつも、主の王国を心に留めておられる。地上に予言者ジョセフ・スミスの手で教会が組織されて以来、主は、物事を行なう新たな方法を発展させようとして、主のみたまによる手助けを増し加えてこられた。これらの発展は、教会の急速な成長にともなっている。教会が数を増し必要が高まるにつれて、主のみたまはこの世を動かし、旅行、伝達、出版の新しい考えが、発展して行った。教会の初期の発展時代から、主はこの世により多くの靈感と光を下したもうたので、汽船、自動車、鉄道、飛行機、タイプライター、ラジオ、テレビジョンや現代のエレクトロニク

スが利用されるにいたったのである。世の人々はこのことを理解していないが、主の教会の成長に思いを寄せるとき、我々は、主が聖徒たちにお与えになった業、特に救いに重要な業を遂行する聖徒のために十分な光と真理をいかにして備えられるかを理解できる。

今や、新しい計画が、小冊子のかたちで出されているので、神殿儀式のために提出する名前がもっと増えるよう期待されている。今から1969年7月1日までの間に、いかなる地における聖徒も、作成しかけているファミリーグループシートを完成していただきたい。完成したこれらのシートは、整理のために系図協会に提出される。1969年7月1日以後は、協会は旧方式によるファミリー・グループシートを受けつけない。これは、協会で働く人々にたまった仕事をすべて整理する時間と、儀式を完遂するために神殿に名前を送る時間を与えるためである。ファイル整理を行なうため、協会は7月1日から10月1日まで、いかなる記録をも受けつけない。

こうして、10月の初旬から、協会は、新しい個人の記入フォームを受けつける。できるだけ多くの記録を、この記入フォームの新しい計画の下で提出していただきたい。今我々が知っているファミリー・グループレコードは、いずれにせよ変更されない。しかしながら、それは、特別な事情の下でのみ各名前と全家族名の提出のためには受入れられる。例えば個人を一つの記録から識別できない場合や、複数の記録の出所により身元を確かなものとする必要がある場合に組み合わせる情報を得るのに用いられる時などである。このような場合ファミリー・グループシートは、いくつかの組み合わせられた記録の出所から情報を提出するために用いられる。

1969年10月1日からすべての仕事は、この「ジャイアント方式」という新しい計画に従って提出される。聖徒はこの方式が簡単で、容易であることを知るであろう。これは、人々に探求の熟練家になることを要求しないがほとんどだれもが記録の出所まで行く機会を持つことになる。これらの記録の出所から、家族構成員の情報が、記録の出所にある典籍にあられた通りに、個人フォームに記入される。もしもこの情報が一人の人間の身元を明らかにするのに、ひとつの情報で十分であるならば、神殿の儀式は執行されることになる。

この方式に関して、さらに情報が将来付け加えられるであろう。この手引を読むと、聖徒たちはこの手引がやさしく書かれてあり使用しやすいものであることに気がつくであろう。これは、神殿の儀式のために名前を提出するのに、きわめて単純な方法を述べているのである。

日本伝道部

今年度最初の地方部大会開かれる

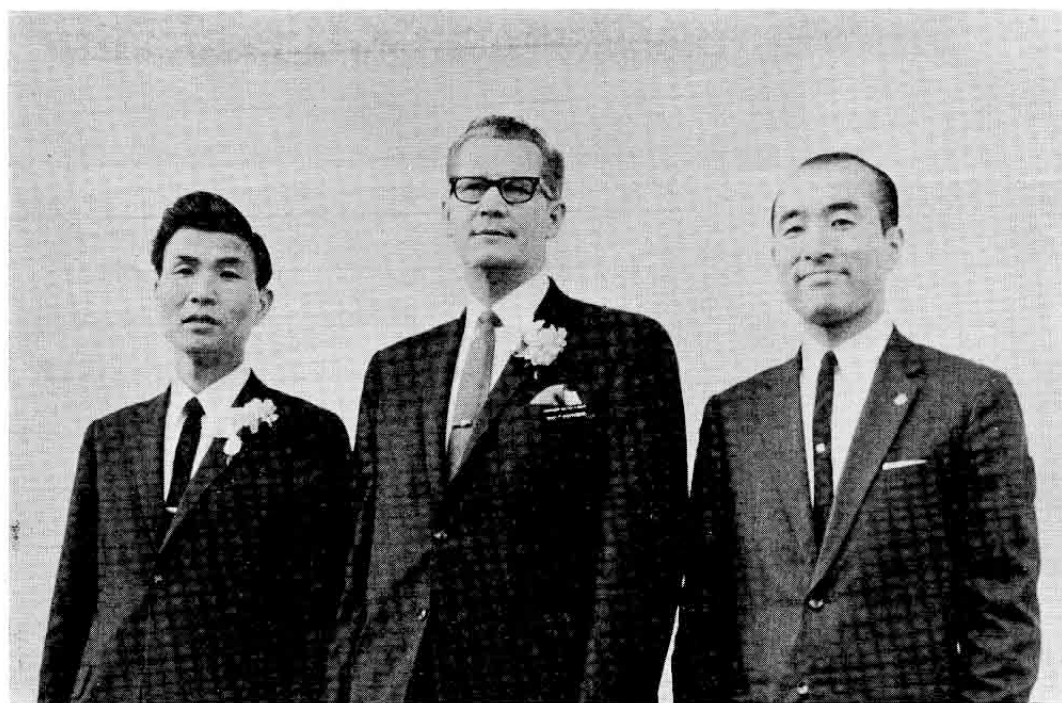
2月8、9日の両日、東京北支部にて今年度最初の地方部大会が開かれた。新しく伝道が開始された青森から浜松にいたる新伝道地の聖徒たちも迎え、約960名の人々が集まった。完全な教会プログラム実現を目標に、組織、役員も変更され、教会確立への布石が敷かれた。今月の日本伝道部ローカル・ページは、この大会を特集します。

新伝道部長会組織さる

2月9日、一般大会において、第二副伝道部長として、菊池良彦兄弟が支持された。宣教師、また東京西支部支部長として各地で活躍された菊池副伝道部長は、ビルス伝道部長を助け本年度の大目標である「伝道」プログラムを強力に推進されます。



一般大会で話されるビルス伝道部長



ビルス伝道部長(中央) 渡辺第一副伝道部長(左) 菊池第二副伝道部長(右)



神権指導者に今年度目標改宗者1,000人を説明するビルス伝道部長

改宗者1,000人目標提示さる

1969年度日本伝道部目標として、伝道プログラムが提示され、日本伝道部内で1,000人の改宗者を導くよう、一人一人へチャレンジがなされた。福音が、より多くの人々へ伝えられ、真の幸福な生活を享受されることと確信します。

伝道部補助組織役員変更

新しく次の兄弟姉妹が任命されました。

YMMIA会長	神田 治 兄弟
〃 第一副会長	野間 龍一 兄弟
〃 第二副会長	神崎 武二郎 兄弟
YWMIA書記	矢島 仁美 姉妹
日曜学校 第一副会長	八木 沼修一 兄弟
扶助協会書記	大岡 良子 姉妹

東北地方部新設される

東中央地方部に属していた、仙台、山形、新潟、福島 of 四支部および新伝道地である青森、八戸、盛岡、郡山の伝道所によって、東北地方部が構成された。地方部長に紙谷富保兄弟、第一副地方部長に塩隆義兄弟、書記に小林博志兄弟が任命された。

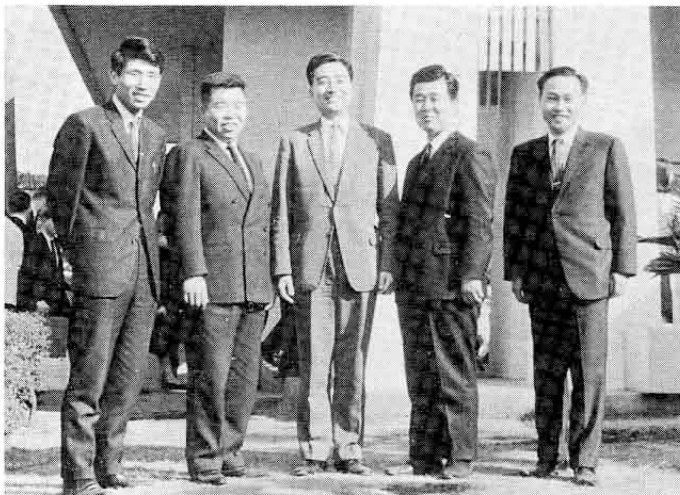
東中央地方部長会変更

地方部長に田中健治兄弟、第一副地方部長に神尾昇兄弟、第二副地方部長に相良健一兄弟、書記に丸山周兵兄弟、書記補助に工藤勝緒兄弟が任命された。地方部評議員には、今井一男兄弟、佐倉井正彦兄弟、小室敬兄弟、水野圭兄弟、児玉栄治兄弟、佐藤襄二兄弟、杉本克己兄弟、森村久男兄弟、柴田俱夫兄弟が任命された。

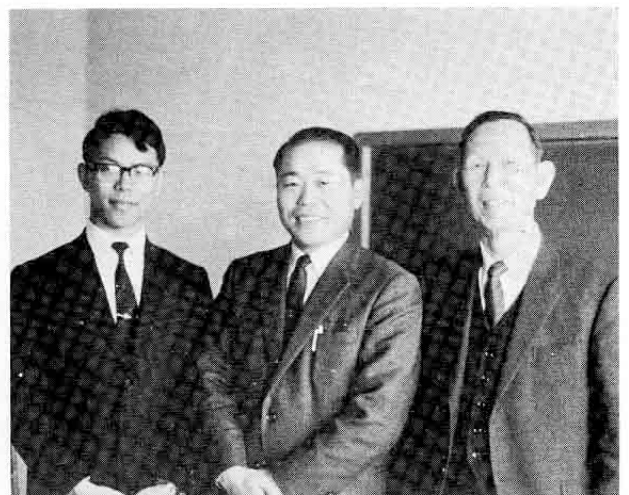
支部長会変更

次の支部において、役員変更が行なわれました。新しく任命された方を紹介します。

東京西支部	支部長 井上竜一兄弟、第一副支部長 内山雅亘兄弟、第二副支部長 松本 潔兄弟
横浜支部	支部長 柏倉 仁兄弟、第一副支部長 浅間玄也兄弟、第二副支部長 石坂晃一兄弟
東京南支部	支部長 坂井 圭兄弟、第一副支部長 戸沢幸男兄弟、第二副支部長 寺坂 昇兄弟
東京東支部	第一副支部長 日向宏兄弟、第二副支部長 福島克明兄弟
山形支部	第二副支部長 黄木信兄弟



東中央地方部長会左より工藤（書記補）神尾（第一）田中（地方部長）相良（第二）丸山（書記）の各兄弟



東北地方部長会左より小林（書記）紙谷（地方部長）塩（第一）の各兄弟



集会場いっぱい集った兄弟姉妹



一般大会に登場した子供コーラス



春の日ざしをあびてお昼休み



子供連れて大会に集う人も多い

伝道部便り

日本沖縄伝道部

文責 神崎良太郎

伝道部指導者会で何が強調されたか

毎年二回、伝道部長会は地方部長及び宣教師ゾーンリーダーとともに集まり伝道部長会が何を考え何を望んでいるか、また各支部の会員とたえず接触している地方部長がどのような問題をかかえ、どのような解決を望んでいるかなどについて、互いに話あい討論を重ねる機会があります。2月1～2日にかけて今年第一回目の会が伝道本部事務所で開かれました。この会で話あわれたことはいずれも会員一人一人と直接関係のある重要なことばかりですが紙面のつごうでほとんど御紹介出来ません。詳しくは、早晚地方部長、支部長を通して伝わることと思います。

ここでは、特に強調されたフェロシッピング活動、紹介制度による伝道活動及びニュースめいたものを2～3記することにとめておきます。

(1)紹介制度による伝道活動

このことの重要性は過去に幾度か強調されましたがほとんど成功しておりませんので、このたびもまたかのひとことで終る恐れがあります。しかしそのようにならぬよう再度チャレンジを致します。現在の宣教師活動の90%は求道者を深すために費やされ、実際に福音を伝えるためには10%しか費やされていない状態です。これにたいして、カルフォルニア及び香港では会員が真剣にこのチャレンジに応えたため上記の比率が逆になっており、紹介者の70%近くが改宗するとのこと。宣教師の数にくらべて求道者の数が多いので、しばしの間おことわりしたり、まとめて家庭集会をしたりするとか。日本にいる宣教師が聞けば夢かと思うかも知れませんが私たちにもこの状態を実現することは可能です。私たちの隣人や友人はMIAや日曜学校の特別プログラム及びスポーツ、ピクニック、食事パーティ、ダンスパーティなどに招待されれば大変喜ばれるのではないのでしょうか。「すべての会員は宣教師である」と述べられたマッケイ大管長の言葉と福音を伝えられたために得ている数々の祝福を常に覚えて互いに励ましあってこのチャレンジによく応えたいものです。よい便りを待っています。

(2)フェロシッピング活動

パウロが新しく改宗された聖徒に述べた言葉「そこであなたがたは、もはや異国人でも宿り人でもなく、聖徒たちと同じ国籍の者であり、神の家族なのである。」(エペソ人への手紙2章19節)は非常に印象的です。求道者、新しい改宗者、そして不活発会員並びに活発会員が実感として暖かさ、親しさを覚えて確かに自分は一人ではなく神の家族の一員なのだと思うには何が必要でしょうか。その重要な一つがフェロシッピング活動だと思います。あなたの笑顔を手を挨拶を、また思いやりのある言葉、助けを必要としていない人は一人としていません。世界でもっとも暖かい、居心地のよい支部、地方部、伝道部とすべく全力を向けてみませんか。そうすれば、ほかならぬ私たち自身にもっとも大いなる祝福がかえってきます。

(3)その他のお知らせ

I) 4月度よりMIA、日曜学校リーダーを発行します。

II) 4月11日、10人の新任宣教師が到着し、これよりすべての専任宣教師の任期は2ヶ年となります。

III) 4月22日、岡町教会堂の献堂式をベンソン長老により行ないます。

IV) 9月6～7日、伝道部誕生一周を記念して全地方部合同大会を開きます。但し、沖縄は13～14日に別に開催します。

YOUTH CONFERENCE

ユースカンファレンス に参加しよう

1969年度のユースカンファレンスに関する計画が発表されました。その概要についていろいろ聞いてみましょう。

いつ、何日間開催されますか

8月7日午後1時から10日の午後2時までの3泊4日間です。

どこで開催されますか

大会期間中、すべて神戸六甲山の中腹にあるカナディアン・アカデミーで開催します。したがって、プログラムによってあちらこちらに移動する必要がなく時間的、経済的、体力的にかなりの節約ができるでしょう。

カナディアン・アカデミーについてもう少し詳しく話してください

在留外人の子弟のための学校で岡崎伝道部長の御息もここに通っています。神戸支部の上の方にあり、夏でも下界よりはかなり涼しいようです。施設は運動場、体育館、教会のレクリエーション・ホールに似たホール、寄宿舎、食堂など必要と思われるものはすべて揃っています。アカデミーからの下界の眺めは相当なものです。夕方、各地方部長をアカデミーにお連れしましたが、施設の立派さとネオンに輝く神戸の町、港の美しさに感嘆していました。これなら安心して、喜んでみんなに参加を呼びかけられるといっておられました。カラー写真をお見せ出来ないのが残念です。

宿泊はどこでしますか

原則として参加者全員、アカデミーの寄宿舎に泊っていただく予定です。勿論、地元の方々にも寄宿舎で4日間を過していただくことにしています。食事もアカデミーで準備してもらつつもりです。

民宿しないとなりますとかなり費用が高くなると思いますが、費用はどの位になりますか

現段階では確定的なことはいえませんが、一人あたり、4,000円から5,000円の間に落着くことはほぼ間違いありません。この費用には3日間の宿泊費(ふとんの借賃など含む)大会期間中の食事(但し、日曜日は第一日曜日につき断食)、プログラムの運営費用、体育館、運動場、ピアノ、ホールなど施設費用を含みます。したがって安いと思われれます。

交通費についてはどのように考えておりますか。昨年は少し返ってきたようですが

半額は自己負担、半額は全員でもちあうようにする計画です。このためのお金の捻出は主として、支部ユースカンファレンス委員会が種々の催物をして、その利益でまかなう予定です。各支部への割当て額は既にお知らせしているはずですが、お互いのためにがんばってください。したがって、個人が負担する全体の費用は4,000円～5,000円プラス交通費の半額となります。

どのようなプログラムが準備されますか

詳しくは3月はじめに各地方部長を通してお伝えしますが予定は、

- 7日：開会式、六甲山ピクニック、伝道部長御夫妻を囲んでのフェロシッピング会、やぐらをくんで浴衣がけで盆踊りをするかも知れません。
- 8日：勉強会、スピーチ、音楽、ドラマ、晩餐会、社交ダンス・パーティ、ファッション・ショー。
- 9日：勉強会、屋外スポーツ、屋内スポーツ(バレー、バスケット等)キャンプ・ファイヤー、フォークダンス・パーティ
- 10日：勉強会、神権会、姉妹の集い、教会大幹部の話、証詞会、閉会式となっています。盛りだくさんですが、いずれも楽しくなりそうです。

これらのプログラムの基本計画は誰が立てていますか

伝道部M I A会長の杉村兄弟、早瀬姉妹とともに約30人のスタッフが選ばれ、現在苦心して骨格を構成中です。

プログラムがたくさんなので自由時間というかお互いにいろいろと話あう時間があるでしょうか。ちょっと心配です

御安心下さい。このような集まりの楽しみの一つにはフリートキキングにあることを認識しています。今回は全員が一ヶ所に泊りますから、かなりそのような時間がありますし、プログラムをくむときにそのことは十分配慮するようにしています。但し、秩序、規律のないグラグラした大会は絶対にお断わりです。

参加資格について話して下さい

独身の方で14才から30才までの方。求道者の方も勿論結構です。既婚者及び30才以上の独身の方は役員もしくは付添人として参加できます。いずれも支部長の面接による承認が必要です。

お金はいつ払いますか

とりあえず支部長を通して2,000円を5月末までに伝道本部宛送金して下さい。申込書とともに。

スプークン ワード

リチャード・L・エバンズ

己れを傷つけ、 他を傷つける

受け入れ難い二つの説がある。他を傷つけることなく、己れを傷つけ得るという説と己れを傷つけることなく、他を傷つけ得るという説である。ジョン・ミューアの言葉が思い出される。「自然に何かを選び出そうとすると、宇宙の他の全てにかかわりあることがわかるものだ」我々はみな相互に関連し合っている。両親や全ての仲間を傷つけることなく、若者が自身を傷つけ得るはずがない。我々はみな己れを始め他の人々——家族や友人、社会や国家の人望と関心を絶えず集めている。

子供の成功は両親の成功、子供の悲しみは両親の悲しみである。

もしも人が心身の能力をそこなうことをするならば、その人はなり得ること、なし得ることを、かなり失うことになる。

もしもだれかが、誤った愚かな選択、事実に対する無関心、健康の法則、生活の法則など、法則を故意に無視することにより、病いにかかり、傷つき、能力をそこなうならば、他の人がその世話をしなければならない。生命があまりにも早く失われ、弱められる時、世界も同様となる。数世紀前、ジョン・ダンは多く唄われ、語られてきたことを、感動的なまじめな言葉で要約している：「人は無きずの島ならず……、我も一人の人なれば、たれの死か我を損なう。ああ知らせたもうな、たがために鐘が鳴るかを、ながために鳴る鐘なるを」

他を傷つけることなく、己を傷つけ、己を傷つけることなく、他を傷つけることはあり得ない。これは、若い人々—実に我々全てに、喜びにも悲しみにも、各々の家族、友人、愛する人を、いみじくも思い起こさせる。もしも己を傷つけ、己が命をそこなうならば、その傷はまた他へと繰りひろがる。「人は無きずの島ならず。」

1. ジョン・ミューア（アメリカの博物学者、探検家）「シエラにおける初めての夏」
2. 十七世紀のめい想のジョン・ダン（英国の詩人）

聖徒の道

1969年3月20日発行

振替口座 東京 76226番

発行人兼編集人 ウォルターR. ビルス

発行所 東京都港区南麻布 5-8-10

末日聖徒イエス・キリスト教会 電話 (442)7438

印刷所 太陽印刷工業株式会社

定価 100円

予約 一年間1,000円（外国4ドル50セント）

電報受信略号「トウキョウ」マツジツ